

令和元年度

中之条町町民意識調査結果

中 之 条 町

1. 調査概要

■調査目的、調査方法、回収結果	1
-----------------------	---

2. 集計結果

基本属性	2
問1	5
問2	7
問3	9
問3－a	11
問4	12 (→別紙)
問5	13
問6	15
問7	17
問8	19
問9	21
問10	23
問11	25
問12	27
問13	29
問14	31
問15	33
問16	35
問17	37
問18	39
問19	41
問20	43
問21	45
問22	47
問23	49
問24	51
【参考】重要度満足度の分析	53

I. 調査概要

■ 調査目的

中之条町では、快適で住みよいまちの実現をめざし、各種事業に取り組んでいる。

今後も中之条町に「住んでみたい」、「住み続けたい」と思っていただけのまちづくりを推進するため、このアンケートを実施し、町民の方々のニーズを把握することを目的とする。

■ 調査方法

- ・対象：中之条町在住。18歳以上。
- ・抽出方法：層化無作為抽出〔地区別、年齢別、性別〕。
- ・配布及び回収方法：郵送

■ 回収結果

発送数	回収数	回収率
1,413票	710票	50.2%

▽配布日：9 / 20

▽名目上の締切日：10 / 10 ※アンケート票に記した回収日

▽実質的な回収日：10 / 30 ※名目上締切日から約20日確保

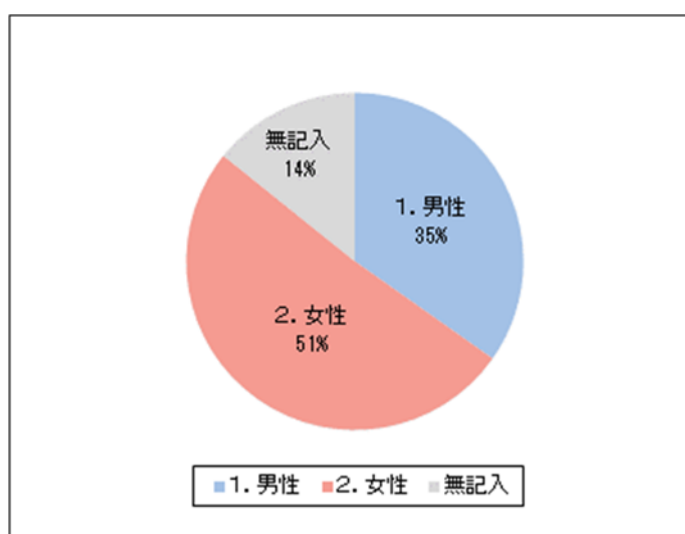
▽最終的な回収日：11 / 7

2. 集計結果

A

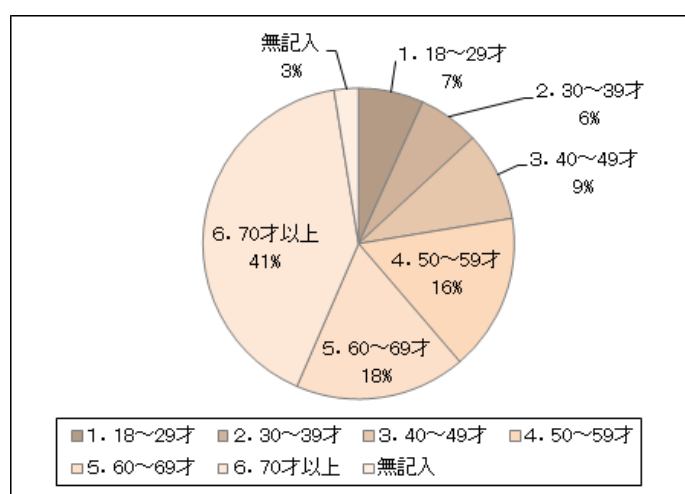
はじめに、あなたについてお聞きます

ア. あなたの性別は？



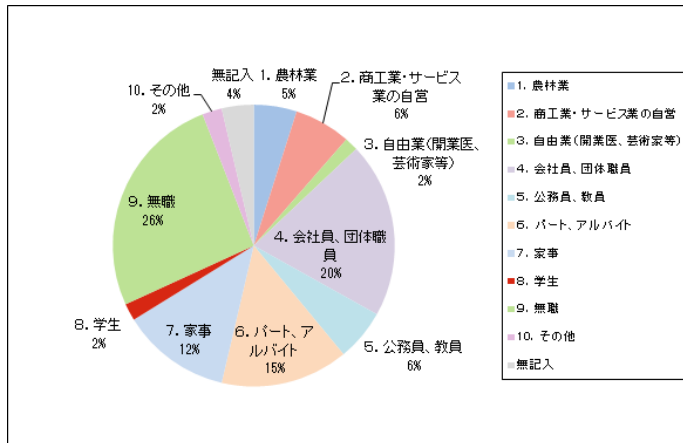
選 択 肢	票 数 (票)	割 合 (%)
1. 男性	247	34.8
2. 女性	362	51.0
無記入	101	14.2
合 計	710	100.0

イ. あなたの年齢は？



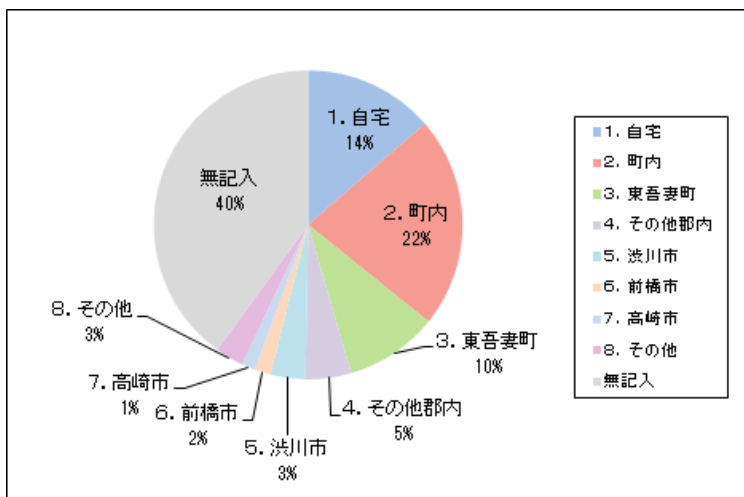
選 択 肢	票 数 (票)	割 合 (%)
1. 18~29才	48	6.8
2. 30~39才	45	6.3
3. 40~49才	66	9.3
4. 50~59才	116	16.3
5. 60~69才	126	17.7
6. 70才以上	291	41.0
無記入	18	2.5
合 計	710	100.0

ウ. あなたの職業は？



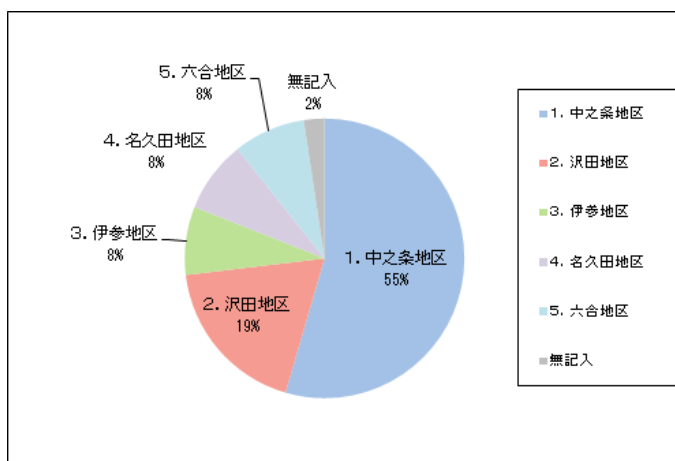
選 択 肢	票 数 (票)	割 合 (%)
1. 農林業	35	4.9
2. 商工業・サービス業の自営	46	6.5
3. 自由業(開業医、芸術家等)	11	1.5
4. 会社員、団体職員	143	20.1
5. 公務員、教員	42	5.9
6. パート、アルバイト	104	14.6
7. 家事	89	12.5
8. 学生	14	2.0
9. 無職	184	25.9
10. その他	16	2.3
無記入	26	3.7
合計	710	100.0

エ. (ウで1～6, 10とお答えの方) その仕事場はどこですか？



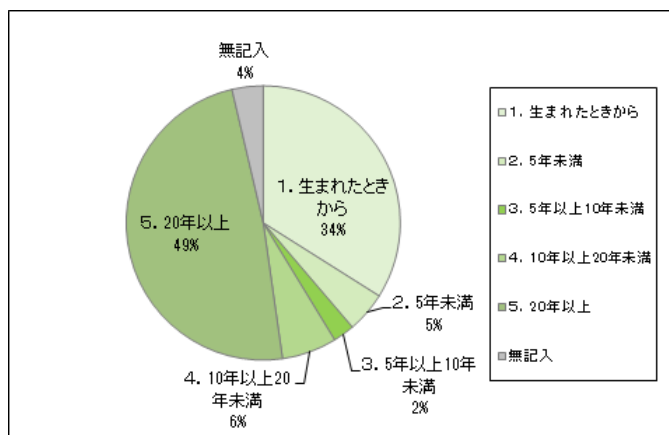
選 択 肢	票 数 (票)	割 合 (%)
1. 自宅	97	13.7
2. 町内	157	22.1
3. 東吾妻町	69	9.7
4. その他郡内	34	4.8
5. 渋川市	26	3.7
6. 前橋市	12	1.7
7. 高崎市	10	1.4
8. その他	21	3.0
無記入	284	40.0
合計	710	100.0

オ. あなたの住んでいる地区は？



選 択 肢	票 数 (票)	割 合 (%)
1. 中之条地区	387	54.5
2. 沢田地区	132	18.6
3. 伊参地区	56	7.9
4. 名久田地区	59	8.3
5. 六合地区	59	8.3
無記入	17	2.4
合計	710	100.0

カ・あなたは中之条町に住んで何年ですか？



選 択 肢	票 数 (票)	割 合 (%)
1. 生まれたときから	241	33.9
2. 5年未満	34	4.8
3. 5年以上10年未満	18	2.5
4. 10年以上20年未満	46	6.5
5. 20年以上	345	48.6
無記入	26	3.7
合計	710	100.0

B

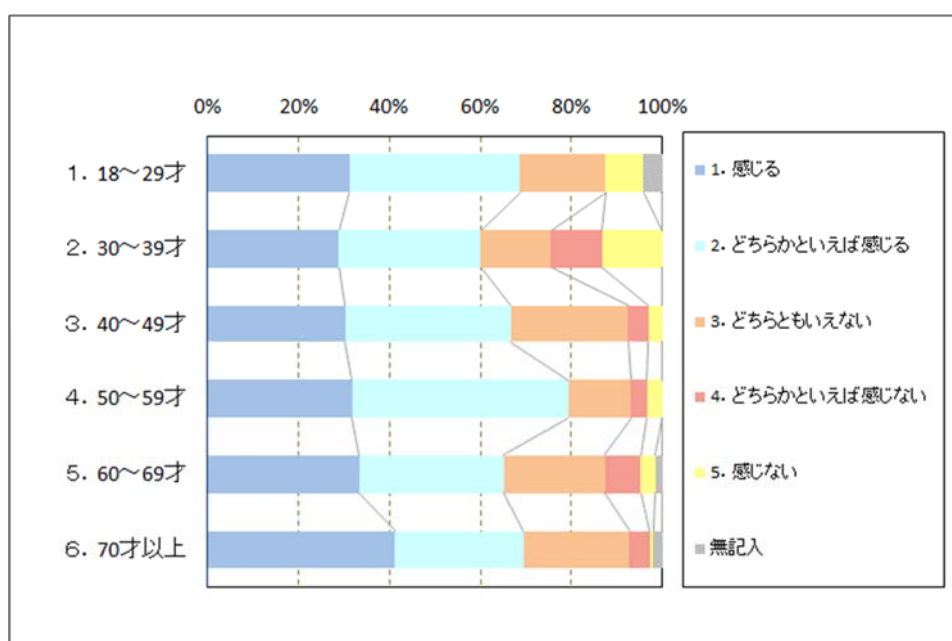
中之条町の印象についてお伺いします

問1

あなたは、中之条町に誇りや愛着を感じますか？
あてはまる番号1つに○印を付けてください。

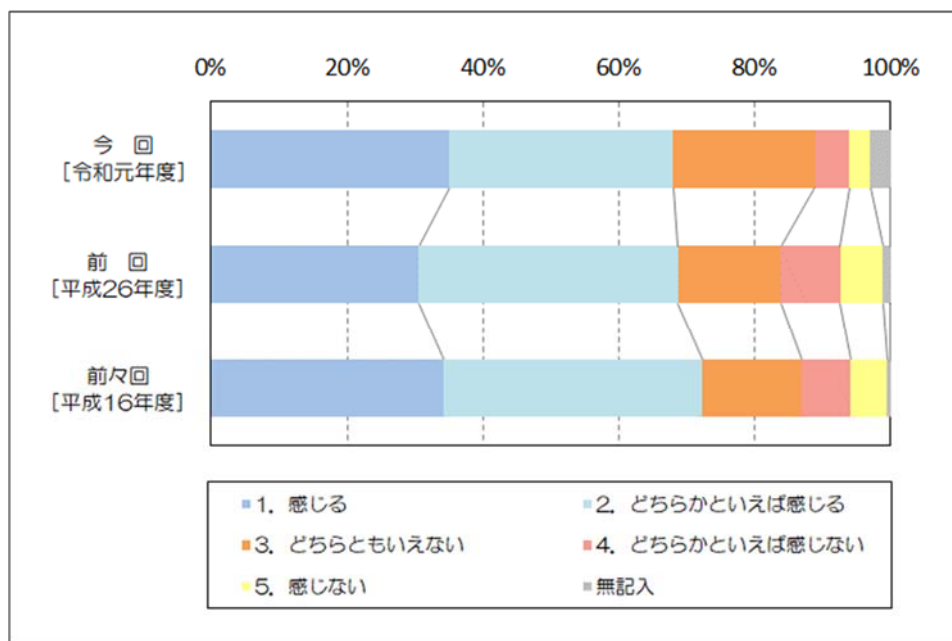
全体的にみると、誇りや愛着を「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合が、60(%)を超えている。

年齢別にみると、50代においてその割合が高くなっている。



	1. 感じる	2. どちらかといえば感じる	3. どちらともいえない	4. どちらかといえば感じない	5. 感じない	無記入	合計
合計	249	234	148	36	22	21	710
1. 18～29才	15	18	9	0	4	2	48
2. 30～39才	13	14	7	5	6	0	45
3. 40～49才	20	24	17	3	2	0	66
4. 50～59才	37	55	16	4	4	0	116
5. 60～69才	42	40	28	10	4	2	126
6. 70才以上	120	82	68	13	2	6	291
無記入	2	1	3	1	0	11	18

誇りや愛着を「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合が微減の傾向にある。



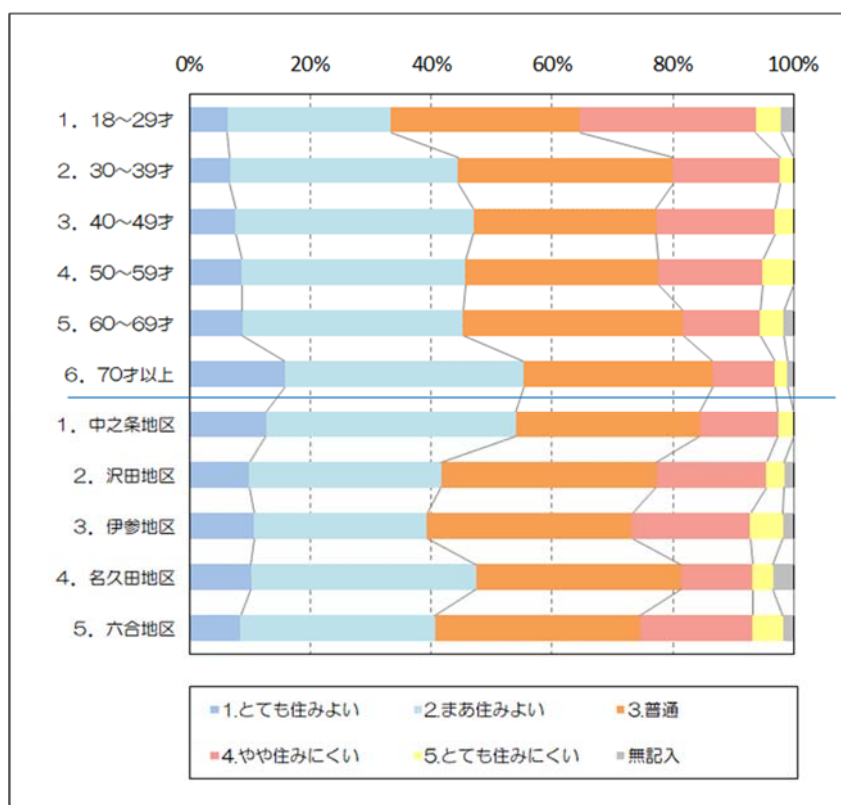
問2

あなたは、中之条町を住みよいところだと感じますか？
あてはまる番号 1 つに○印を付けてください。

全体的にみると「まあ住みよい」が最も多くなっている。

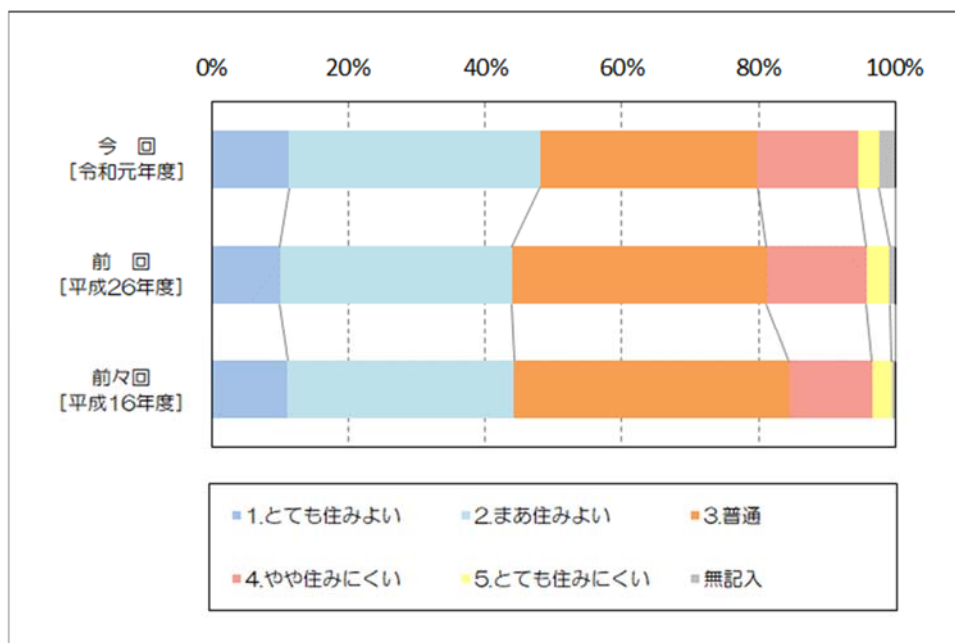
年齢別にみると、70才以上において「とても住みよい」と「まあ住みよい」の割合が高くなっている。

地区別にみると、中之条地区において「とても住みよい」と「まあ住みよい」の割合が高くなっている。



	1.とても住みよい	2.まあ住みよい	3.普通	4.やや住みにくい	5.とても住みにくい	無記入	合計
合計	80	261	226	104	22	17	710
1. 18～29才	3	13	15	14	2	1	48
2. 30～39才	3	17	16	8	1	0	45
3. 40～49才	5	26	20	13	2	0	66
4. 50～59才	10	43	37	20	6	0	116
5. 60～69才	11	46	46	16	5	2	126
6. 70才以上	46	115	91	30	6	3	291
無記入	2	1	1	3	0	11	18
1. 中之条地区	49	160	118	50	10	0	387
2. 沢田地区	13	42	47	24	4	2	132
3. 伊参地区	6	16	19	11	3	1	56
4. 名久田地区	6	22	20	7	2	2	59
5. 六合地区	5	19	20	11	3	1	59
無記入	1	2	2	1	0	11	17

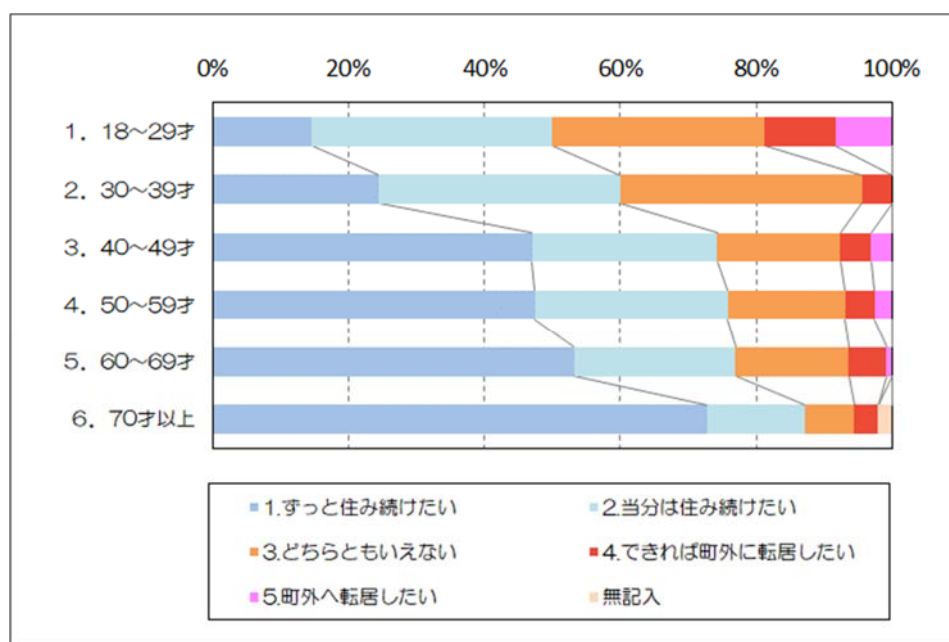
「とても住みよい」と「まあ住みよい」の割合は、微増の傾向にあるが、「普通」まで含めると、微減の傾向にある。



問3

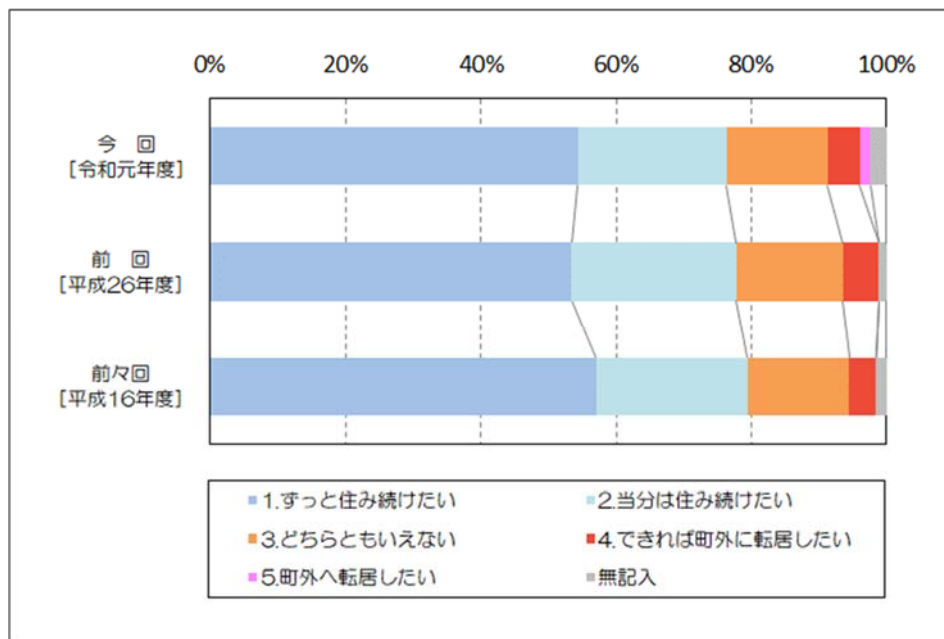
あなたはこれからずっと中之条町に住み続けたいと思いますか？
あてはまる番号1つに○印を付けてください。

全体的にみると、「ずっと住み続けたい」が最も多くなっている。
年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」の割合は、年齢が高いほど高くなっている。



	1.ずっと住み続けたい	2.当分は住み続けたい	3.どちらともいえない	4.できれば町外に転居したい	5.町外へ転居したい	無記入	合計
合計	386	156	106	34	11	17	710
1. 18~29才	7	17	15	5	4	0	48
2. 30~39才	11	16	16	2	0	0	45
3. 40~49才	31	18	12	3	2	0	66
4. 50~59才	55	33	20	5	3	0	116
5. 60~69才	67	30	21	7	1	0	126
6. 70才以上	212	42	21	10	0	6	291
無記入	3	0	1	2	1	11	18

「ずっと住みたい」と「当分は住みたい」の割合は、微減の傾向にある。

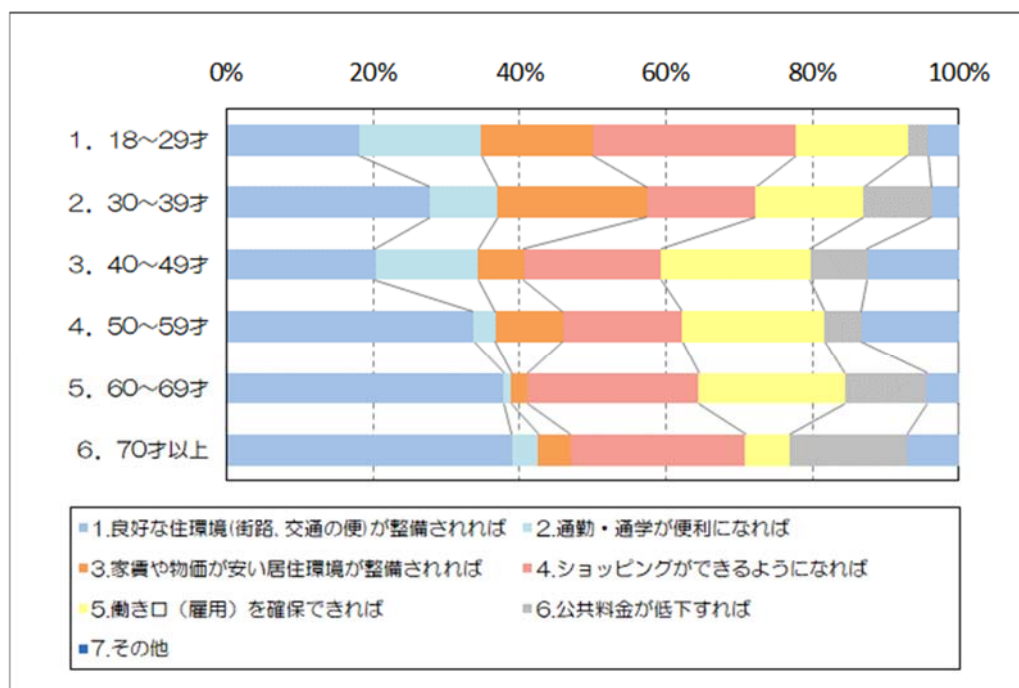


問3
-a

(2～5 と答えた方へ) どの条件が改善されれば住み続けることを考えますか？あてはまる番号2つまで○印を付けてください。

全体的にみると、「良好な住環境（街路、交通の便）が整備されれば」が最も多く、次いで「ショッピングができるようになれば」が多くなっている。

年齢別にみると、18～29才は「ショッピングができるようになれば」、40代は「働き口（雇用）を確保できれば」の割合が、高くなっている。

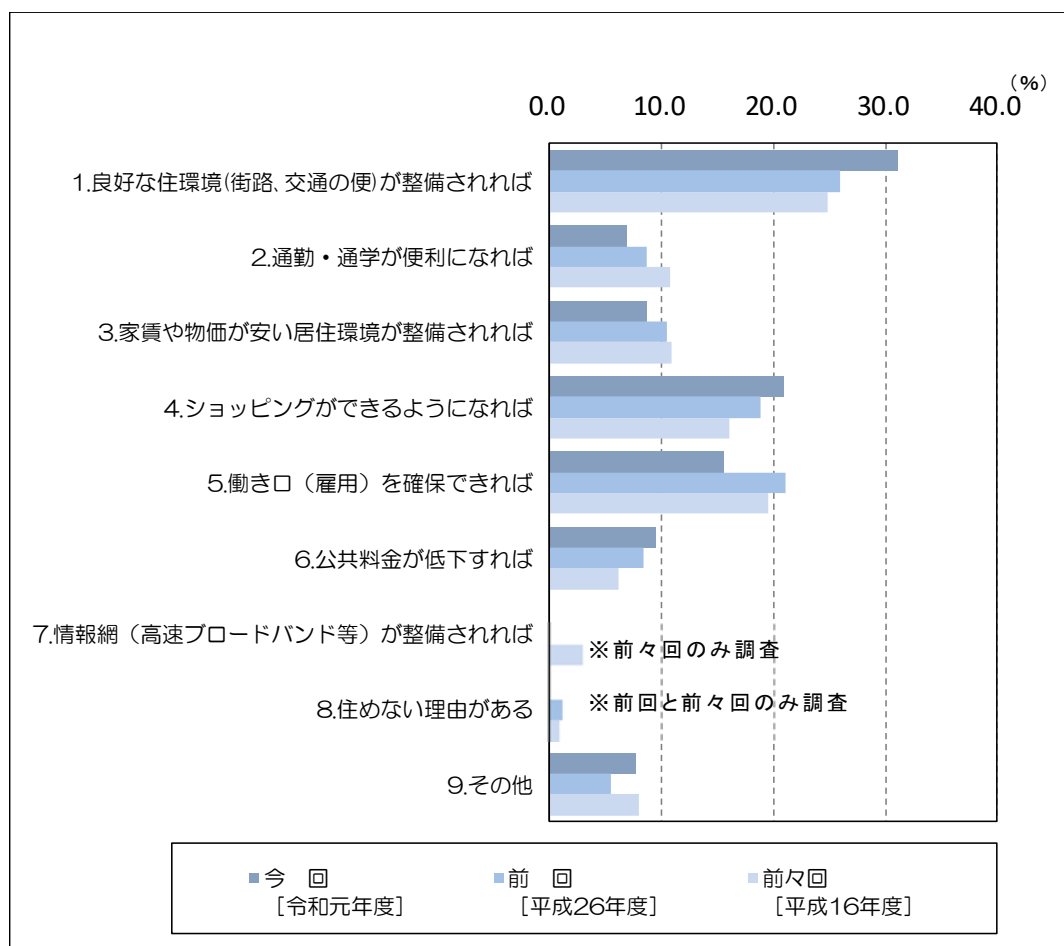


	1.良好な住環境(街路、交通の便)が整備されれば	2.通勤・通学が便利になれば	3.家賃や物価が安い居住環境が整備されれば	4.ショッピングができるようになれば	5.働き口(雇用)を確保できれば	6.公共料金が低下すれば	7.その他
合計	155	34	43	104	77	47	38
1. 18～29才	13	12	11	20	11	2	3
2. 30～39才	15	5	11	8	8	5	2
3. 40～49才	13	9	4	12	13	5	8
4. 50～59才	33	3	9	16	19	5	13
5. 60～69才	34	1	2	21	18	10	4
6. 70才以上	44	4	5	27	7	18	8
無記入	3	0	1	0	1	2	0

経年変化

「良好な住環境（街路、交通の便）が整備されれば」、「ショッピングができるようになれば」が、経年的に増加している。

「働き口（雇用）を確保できれば」、「家賃や物価が安い居住環境が整備されれば」は、経年的に減少している。



問4

中之条町の良い（好きな）ところ、悪い（嫌いな）ところは、何（どこ）ですか？それぞれご自由にお書きください。

良い（好きな）ところ	悪い（嫌いな）ところ
（別紙）	（別紙）

C

あなたの住んでいる周辺の環境や日々の暮らしについてお伺いします

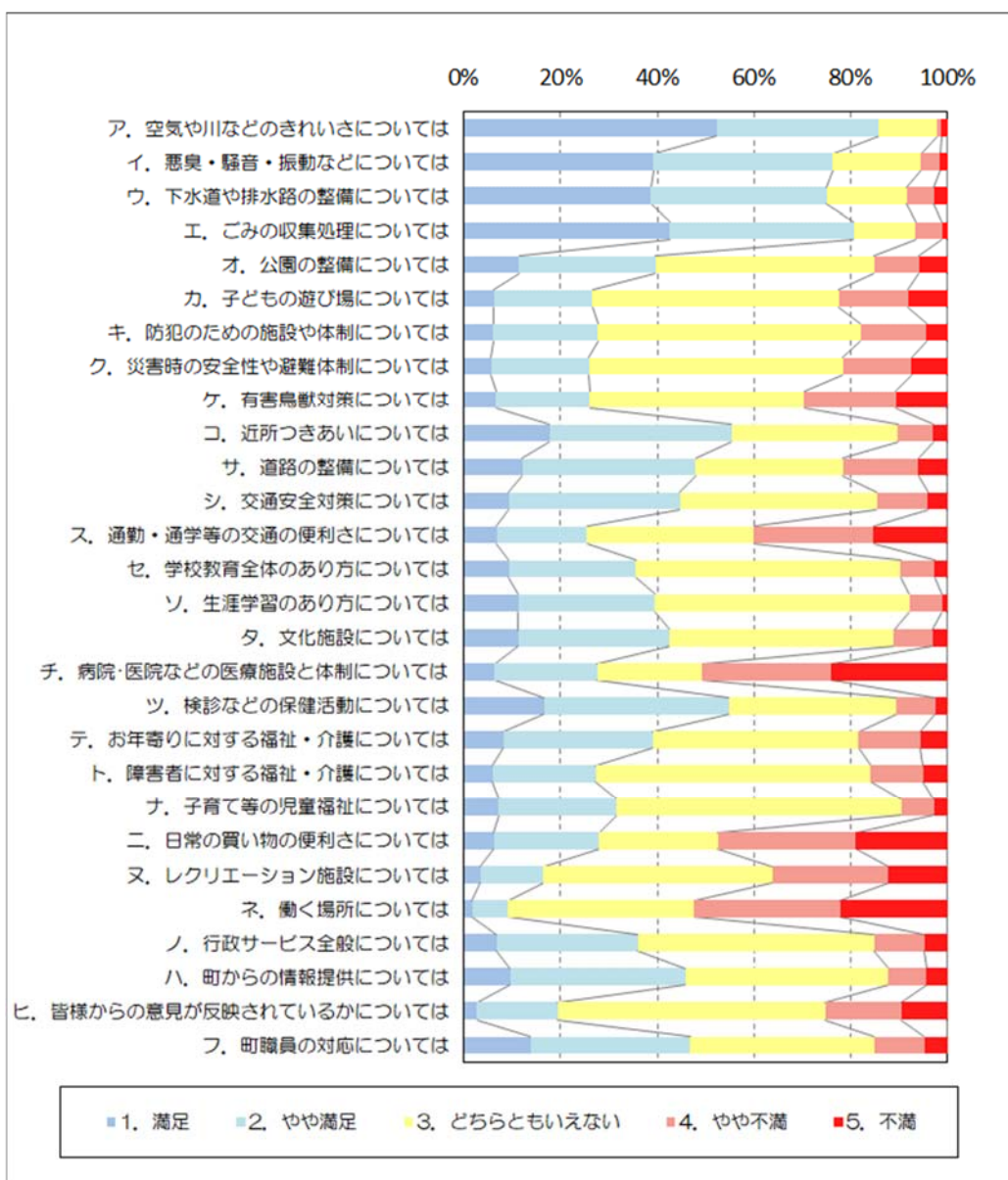
問5

あなたが生活をする様々な面について、どの程度満足していますか？
それぞれの項目について○印を付けてください。

「満足」と「やや満足」を合わせると、「空気や川などのきれいさ」が最も多く、次いで「ごみの収集処理」、「悪臭・騒音・振動など」になっている。

「やや不満」と「不満」を合わせると、「働く場所」が最も多く、次いで「病院・医院などの医療施設と体制」、「日常の買物の便利さ」になっている。

この傾向は、前回と同様である。



「満足」と「やや満足」の割合について前回と比較すると、「学校教育全体のあり方」と「お年寄りに対する福祉」が約10%増加している。

「やや不満」と「不満」の割合について前回と比較すると、「働く場所」が約10%減少（良くなっている）している。次いで「子育て等の児童福祉」、「道路の整備」、「子どもの遊び場」もよくなっている。

若干悪くなっているのは、「お年寄りに対する福祉・介護」、「皆さんの意見反映」、「障害者に対する福祉・介護」になっている。

「満足」と「やや満足」は全体的に増加しており、「不満」と「やや不満」も良くなっているものが多く、改善されていることがわかる。

■「満足」と「やや満足」の割合が高い項目

	満足と やや満足	対前回比 (%)
ア. 空気や川などのきれいさについては	86%	+5.6%
エ. ごみの収集処理については	81%	+3.0%
イ. 悪臭・騒音・振動などについては	76%	+1.0%
ウ. 下水道や排水路の整備については	75%	+4.2%
コ. 近所つきあいについては	55%	+5.7%
ツ. 検診などの保健活動については	55%	+5.8%
サ. 道路の整備については	48%	+5.3%
フ. 町職員の対応については	47%	+3.9%
ハ. 町からの情報提供については	46%	+3.8%
シ. 交通安全対策については	45%	+4.0%
タ. 文化施設については	43%	+5.9%
オ. 公園の整備については	40%	+2.4%
ソ. 生涯学習のあり方については	39%	+7.0% ↑良くなっている
テ. お年寄りに対する福祉・介護については	39%	+10.3% ↑良くなっている
ノ. 行政サービス全般については	36%	+6.3%
セ. 学校教育全体のあり方については	36%	+10.5% ↑良くなっている
ナ. 子育て等の児童福祉については	32%	+7.8%
ニ. 日常の買い物の便利さについては	28%	+1.9%
キ. 防犯のための施設や体制については	28%	+3.2%
チ. 病院・医院などの医療施設と体制については	28%	+6.3%
ト. 障害者に対する福祉・介護については	27%	+6.1%
カ. 子どもの遊び場については	27%	+0.9%
ケ. 有害鳥獣対策については	26%	+7.7% ↑良くなっている
ク. 災害時の安全性や避難体制については	26%	+3.7%
ス. 通勤・通学等の交通の便利さについては	25%	+2.1%
ヒ. 皆様からの意見が反映されているかについては	19%	+4.4%
ヌ. レクリエーション施設については	16%	+1.7%
ネ. 働く場所については	9%	+0.3%

■「不満」と「やや不満」の割合が高い項目

	不満と やや不満	対前回比 (%)
ネ. 働く場所については	52%	▲ 10.0% ↓良くなっている
チ. 病院・医院などの医療施設と体制については	51%	▲ 0.6%
ニ. 日常の買い物の便利さについては	47%	▲ 2.7%
ス. 通勤・通学等の交通の便利さについては	40%	▲ 0.7%
ヌ. レクリエーション施設については	36%	▲ 3.5%
ケ. 有害鳥獣対策については	30%	▲ 1.7%
ヒ. 皆様からの意見が反映されているかについては	25%	2.3% ↓若干悪くなっている
カ. 子どもの遊び場については	22%	▲ 5.7% ↓良くなっている
ク. 災害時の安全性や避難体制については	22%	▲ 1.1%
サ. 道路の整備については	22%	▲ 5.8% ↓良くなっている
テ. お年寄りに対する福祉・介護については	18%	2.5% ↓若干悪くなっている
キ. 防犯のための施設や体制については	18%	▲ 3.1%
ト. 障害者に対する福祉・介護については	16%	2.2% ↓若干悪くなっている
ノ. 行政サービス全般については	15%	▲ 1.3%
オ. 公園の整備については	15%	▲ 3.9%
フ. 町職員の対応については	15%	1.3%
シ. 交通安全対策については	15%	▲ 0.3%
ハ. 町からの情報提供については	12%	▲ 1.6%
タ. 文化施設については	11%	▲ 2.1%
ツ. 検診などの保健活動については	10%	▲ 0.6%
コ. 近所つきあいについては	10%	0.9%
セ. 学校教育全体のあり方については	10%	▲ 4.8%
ナ. 子育て等の児童福祉については	9%	▲ 8.5% ↓良くなっている
ウ. 下水道や排水路の整備については	8%	0.6%
ソ. 生涯学習のあり方については	8%	0.2%
エ. ごみの収集処理については	7%	▲ 0.5%
イ. 悪臭・騒音・振動などについては	5%	▲ 2.1%
ア. 空気や川などのきれいさについては	2%	▲ 3.3%

問6

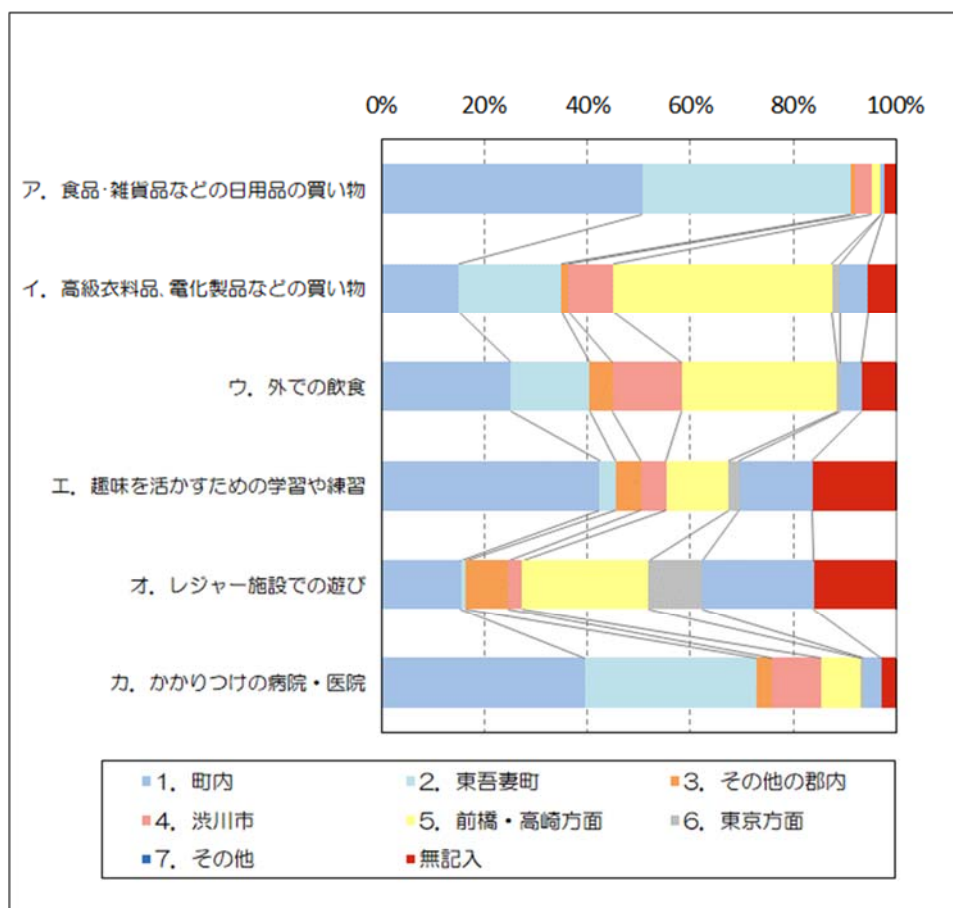
あなたは次のような買物等をする時は、主にどこで行いますか？
それぞれ、主な場所1つに○印を付けてください。

「日用品の買い物」、「かかりつけの病院・医院」は、「町内」及び「東吾妻町」が高い割合になっている。

「高級衣料品、電化製品の買い物」、「外での飲食」は、「前橋・高崎方面」が高い割合になっている。

「趣味を活かすための学習や練習」は、「町内」が高い割合になっている。

「レジャー施設での遊び」は、「前橋・高崎方面」及び「その他」が高い割合になっている。



	1. 町内	2. 東吾妻町	3. その他の郡内	4. 渋川市	5. 前橋・高崎方面	6. 東京方面	7. その他	無記入	合計
ア. 食品・雑貨品などの日用品の買い物	360	287	7	22	13	0	5	16	710
イ. 高級衣料品、電化製品などの買い物	107	141	10	62	302	10	39	39	710
ウ. 外での飲食	178	109	32	95	215	4	30	47	710
エ. 趣味を活かすための学習や練習	301	22	35	35	86	15	101	115	710
オ. レジャー施設での遊び	110	6	59	19	175	73	155	113	710
カ. かかりつけの病院・医院	280	238	21	68	55	3	25	20	710

「どこに行くのか？」を対前回比（％）で分析した結果を示す。

日用品は、「町内」が約14％増加し、「渋川市」で若干増加している。

衣料品や電化製品は、「町内」と「東吾妻町」で増加し、「前橋高崎方面」と「渋川市」で減少している。

外食は、「町内」が増え、「渋川市」と「前橋・高崎方面」で減少している。

趣味は、「町内」が増え、「前橋・高崎方面」で減少している。

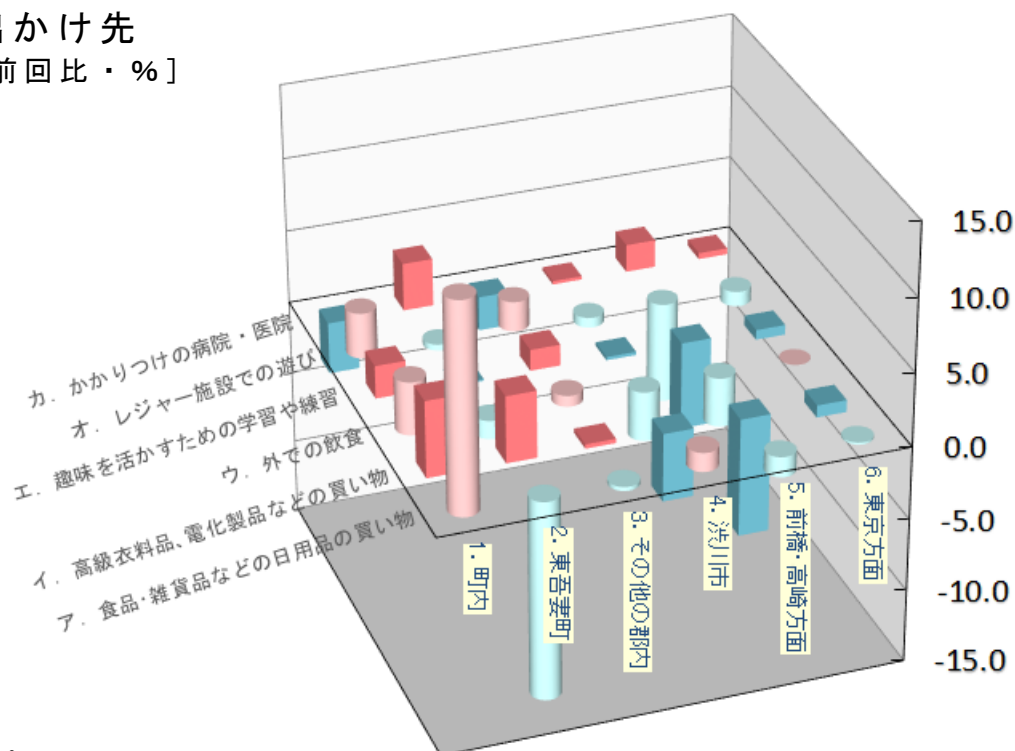
レジャーは、「町内」が増え、「前橋・高崎方面」で減少している。

病院・医院は、「町内」が減少し、「東吾妻町」と「前橋・高崎方面」で増加している。

これらのことから、病院・医院を除き、「町内」での需要が高まっていることが伺える。

■ お出かけ先

[対前回比・％]



[赤はプラス、青はマイナス]

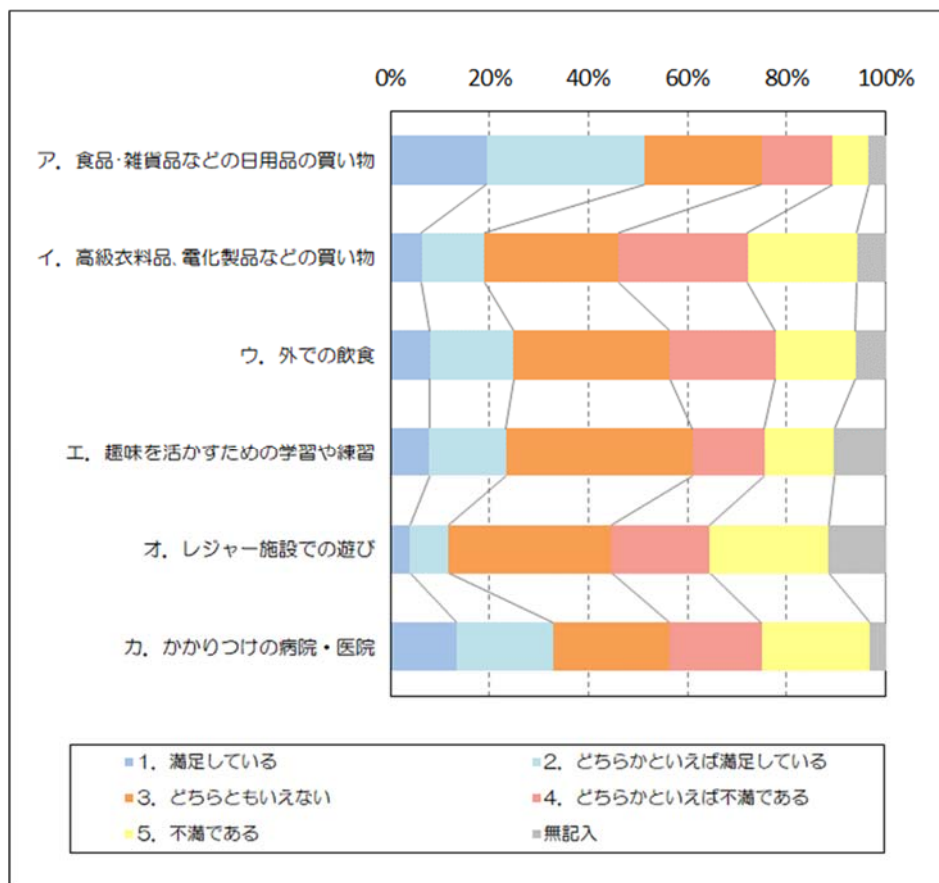
問7

それでは問6のことを中之条町ですとしたり、どれほどの満足度が得られますか？それぞれについて1に〇印を付けてください。

「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が、「どちらかといえば不満」と「不満」の合計を上回っているのは、「日用品の買い物」のみで、約50%を超えている。

他は、「どちらかといえば不満」と「不満」の合計が、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計を上回っている。

「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせると、「高級衣料品、電化製品の買い物」、「レジャー施設での遊び」、「かかりつけの病院・医院」が、約40%を超え、高い割合になっている。



	1. 満足している	2. どちらかといえば満足している	3. どちらともいえない	4. どちらかといえば不満である	5. 不満である	無記入	合計
ア. 食品・雑貨品などの日用品の買い物	138	227	167	102	51	25	710
イ. 高級衣料品、電化製品などの買い物	45	90	192	185	157	41	710
ウ. 外での飲食	57	119	224	152	115	43	710
エ. 趣味を活かすための学習や練習	56	110	267	103	100	74	710
オ. レジャー施設での遊び	28	55	234	141	170	82	710
カ. かかりつけの病院・医院	95	139	166	132	155	23	710

「中之条町でどの程度満足できるか？」を対前回比（％）で分析した結果を示す。

「満足」と「どちらかといえば満足」の合計は、「日用品」や「病院」が高い割合を示しているが、「日用品」は前回に比べて約９％増加しており、「病院・医院」はやや減少している。

「どちらかといえば不満」と「不満」の合計は、「高級衣料品・電化製品」や「レジャー」が高い割合を示しているが、「高級衣料品・電化製品」は、約６％減少しており、「レジャー」は約５％減少している。

これらのことから、生活に係る行動は良い傾向になりつつあるが、「病院・医院」は、悪い傾向になりつつある。

	満足＋どちらかといえば満足				どちらかといえば不満＋不満			
	今回 (%)	前回 (%)	今回－前回 (%)		今回 (%)	前回 (%)	今回－前回 (%)	
↑良くなっている	51.4	42.5	8.9	ア. 食品・雑貨品などの日用品の買い物	21.5	30.4	▲ 8.9	↓良くなっている
↑若干良くなっている	19.0	15.5	3.5	イ. 高級衣料品、電化製品などの買い物	48.2	54.4	▲ 6.2	↓良くなっている
↑若干良くなっている	24.8	22.6	2.2	ウ. 外での飲食	37.6	41.1	▲ 3.5	↓若干良くなっている
↓若干悪くなっている	23.4	24.8	▲ 1.4	エ. 趣味を活かすための学習や練習	28.6	29.0	▲ 0.4	↓若干良くなっている
↓若干悪くなっている	11.7	12.1	▲ 0.4	オ. レジャー施設での遊び	43.8	48.3	▲ 4.5	↓若干良くなっている
↓若干悪くなっている	33.0	33.2	▲ 0.2	カ. かかりつけの病院・医院	40.4	37.7	2.8	↓若干悪くなっている

D

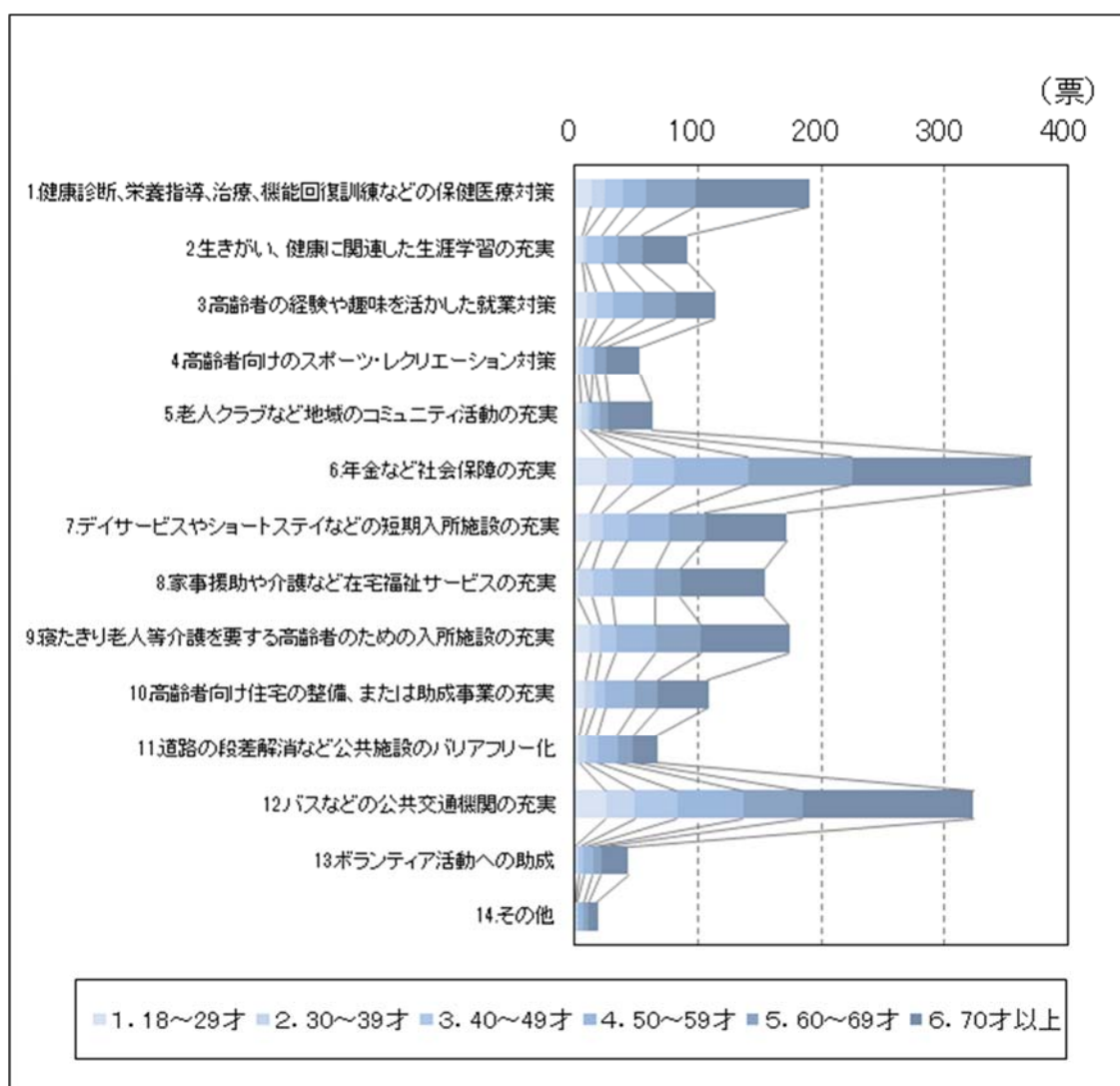
少子高齢化社会について伺います

問8

町の高齢化社会への対応策として、どのようなことに重点をおくべきだと思いますか？あてはまる番号3つまで○印を付けてください。

全体的にみると、「年金など社会保障の充実」が最も多く、「バスなどの公共交通機関の充実」が続いている。

年齢別にみてもこの2つが多いが、18～49才は、「バスなどの公共交通機関の充実」が最も多くなっている。

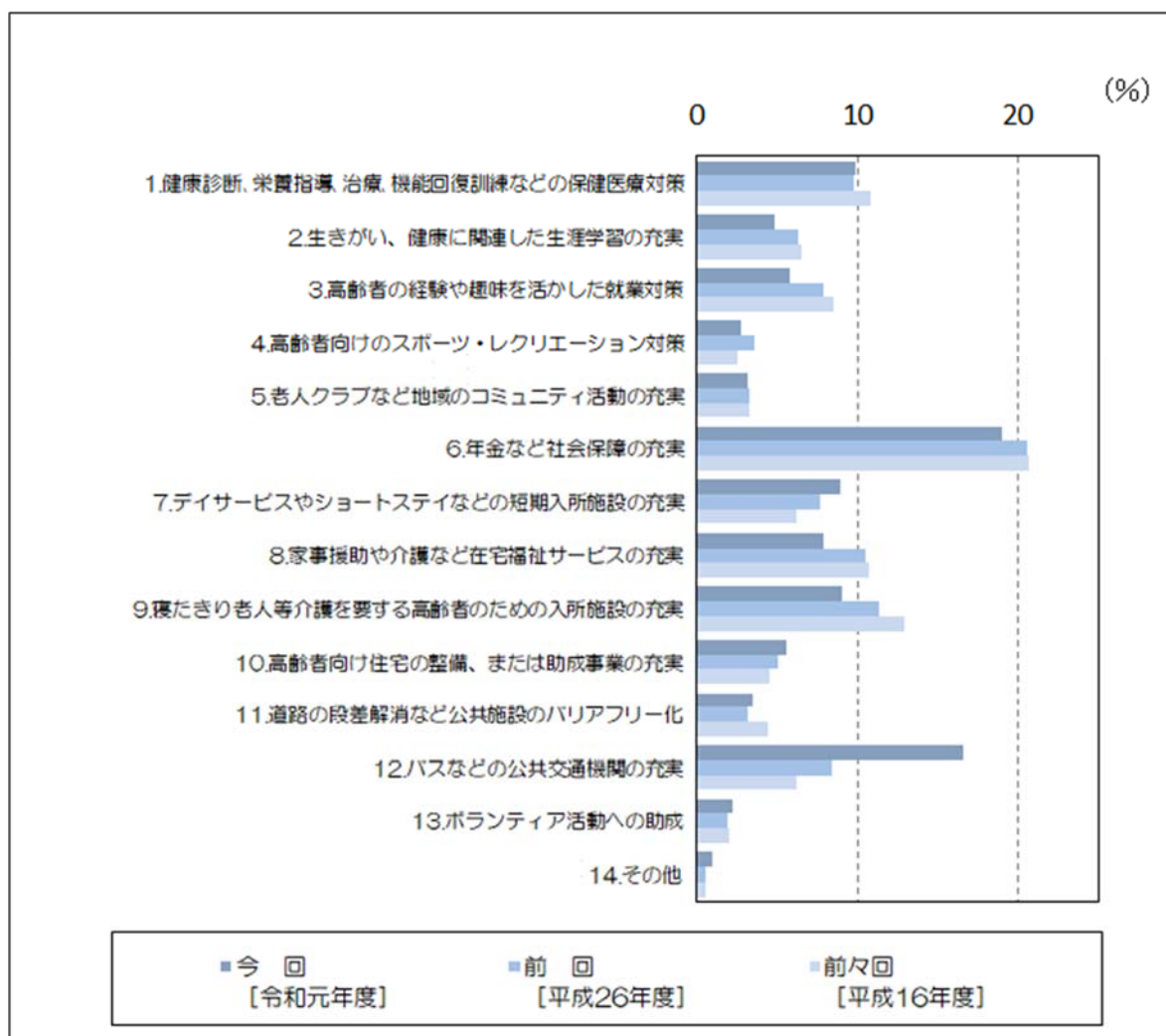


経年的に増加しているのは、「バスなどの公共交通機関の充実」、「デイサービスやショートステイなどの短期入所施設の充実」で、今回、「バスなどの公共交通機関の充実」が特に増加しているのが特徴である。

経年的に減少しているのは、「年金など社会保障の充実」、「寝たきり老人等介護を要する高齢者のための入所施設の充実」、「家事援助や介護など在宅福祉サービスの充実」である。

この中で「年金など社会保障の充実」は、18～29才でのみ増加しており、将来的な不安が高まっている恐れがある。

さらに「在宅福祉サービスの充実」が減少していることは、地域包括ケアシステムの推進に反した結果といえる。



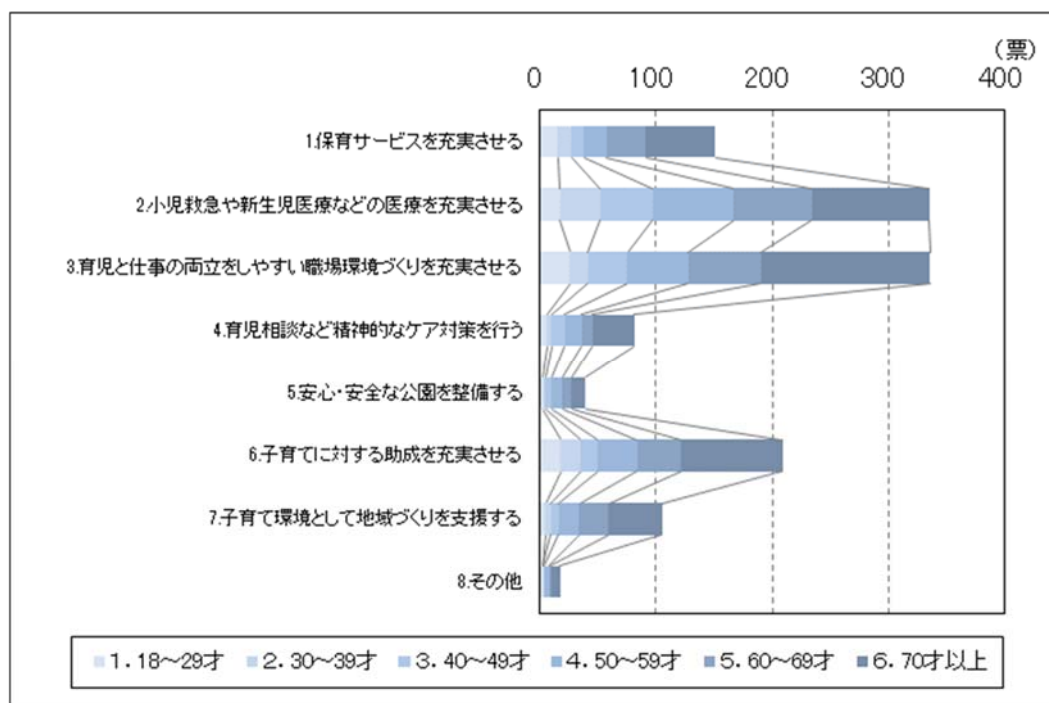
問9

子育てのための良好な環境づくりとして、どのようなことに重点をおくべきだと思いますか？あてはまる番号2つに○印を付けてください。

全体的にみると、「育児と仕事の両立をしやすい職場環境づくりを充実させる」と「小児救急や新生児医療などの医療を充実させる」がほぼ同数で多くなっている。

年齢別にみても同じ傾向だが、18～29才において、「子育てに対する助成を充実させる」が多くなっている。

したがって、助成は、比較的若い世代をターゲットにすることが望ましい。



	1. 保育サービスを充実させる	2. 小児救急や新生児医療などの医療を充実させる	3. 育児と仕事の両立をしやすい職場環境づくりを充実させる	4. 育児相談など精神的なケア対策を行う	5. 安心・安全な公園を整備する	6. 子育てに対する助成を充実させる	7. 子育て環境として地域づくりを支援する	8. その他
合計	153	338	340	84	42	211	105	17
1. 18～29才	15	17	26	6	3	18	5	3
2. 30～39才	12	35	15	4	2	17	4	0
3. 40～49才	11	45	34	11	5	15	7	1
4. 50～59才	19	70	53	15	9	34	18	4
5. 60～69才	34	67	62	9	8	38	25	1
6. 70才以上	60	101	146	36	12	87	46	8
無記入	2	3	4	3	3	2	0	0

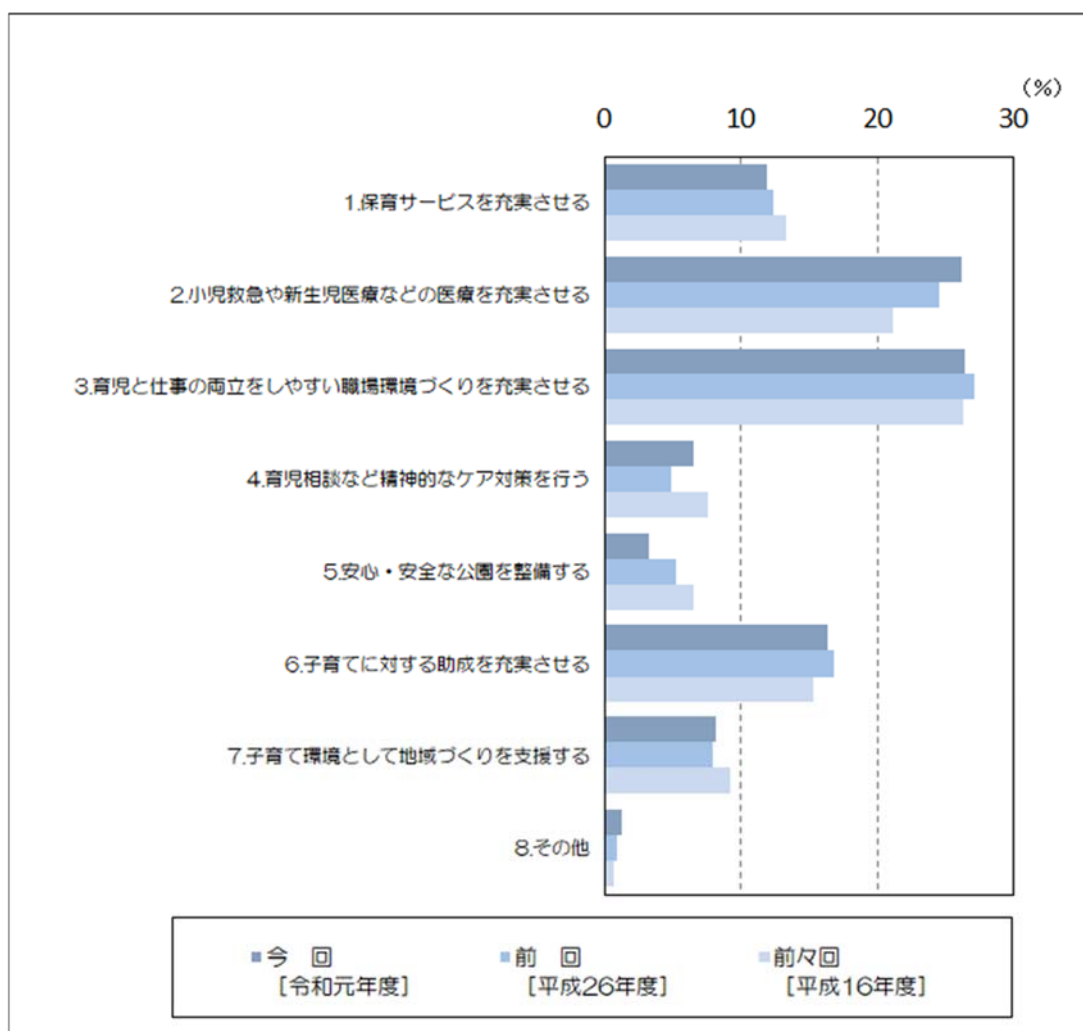
「育児と仕事の両立をしやすい職場環境づくりを充実させる」が、多くなっており、恒常的な課題になっていると考えられる。

経年的に増加しているのは、「小児救急や新生児医療などの医療を充実させる」であり、医療が重要な課題になってきていることがわかる。

経年的に減少しているのは、「保育サービスを充実させる」と「公園を整備する」である。

なお、年齢別にみると、60才以上は前回と今回で変化がみられないため、若い年齢に比べて関心が低いかもしれない。

このことから、保育サービスと公園整備は、一定のサービスレベルを確保しつつあるのかもしれない。



E

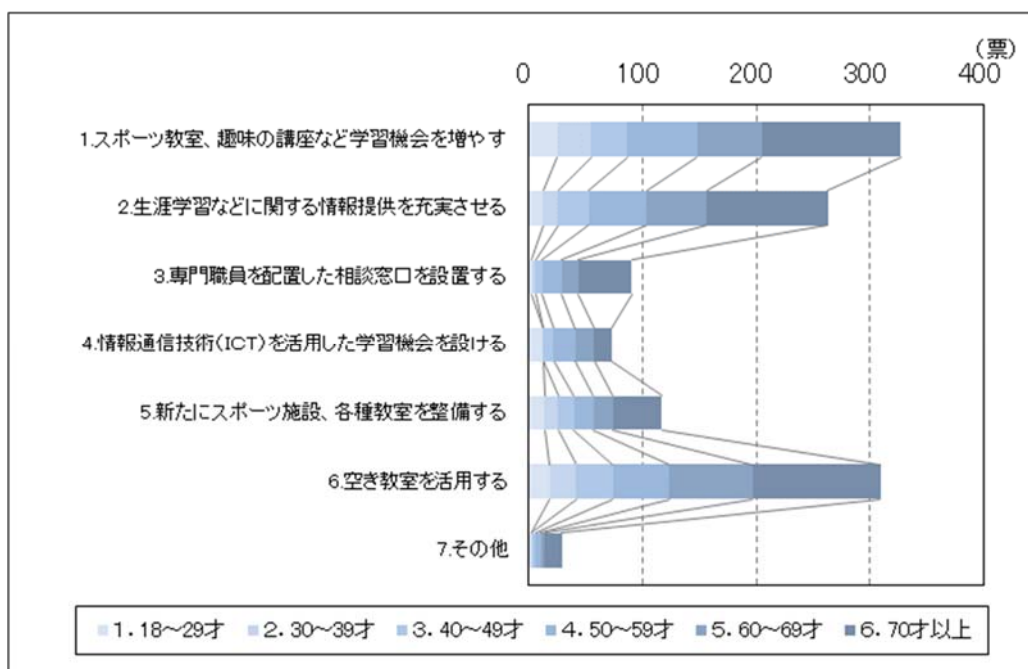
生涯学習・学校教育についてお伺いします

問 10

生涯学習、スポーツ、レクリエーションなどを充実するため、どのようなことに重点をおくべきだと思いますか？あてはまる番号2つに○印を付けてください。

全体的にみると、「スポーツ教室、趣味の講座など学習機会を増やす」が最も多く、「空き教室を活用する」、「生涯学習などに関する情報提供を充実させる」が続いている。

年齢別にみると、60代は「空き教室を活用する」が最も多くなっている。

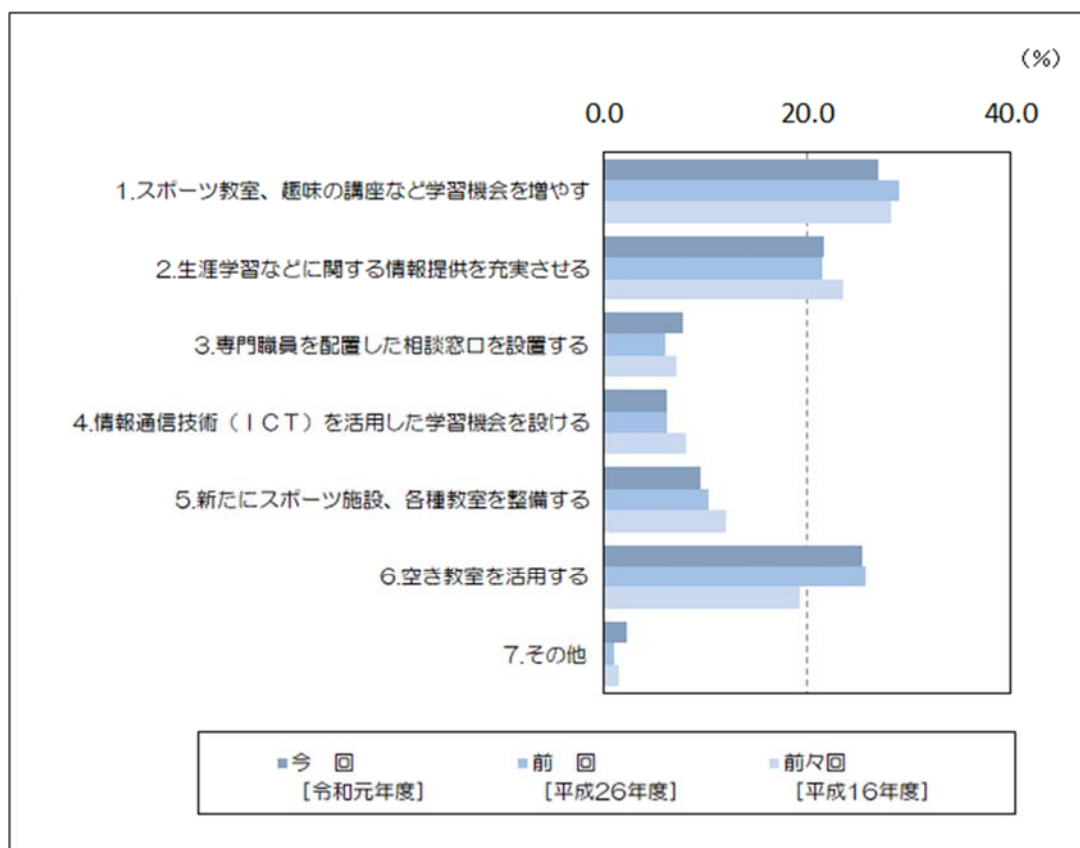


	1.スポーツ教室、趣味の講座など学習機会を増やす	2.生涯学習などに関する情報提供を充実させる	3.専門職員を配置した相談窓口を設置する	4.情報通信技術(ICT)を活用した学習機会を設ける	5.新たにスポーツ施設、各種教室を整備する	6.空き教室を活用する	7.その他
合計	331	266	96	76	117	311	29
1. 18~29才	25	13	3	13	14	19	2
2. 30~39才	30	13	3	0	12	23	1
3. 40~49才	32	27	6	9	14	32	3
4. 50~59才	61	51	17	19	17	50	5
5. 60~69才	57	53	15	17	17	73	3
6. 70才以上	122	106	47	15	43	112	15
無記入	4	3	5	3	0	2	0

経年的に増加している項目で、目立つものはない。

経年的に減少しているのは、「スポーツ教室、趣味の講座など学習機会を増やす」、「新たにスポーツ施設、各種教室を整備する」である。

これらのことから、生涯学習、スポーツ、レクリエーションは、一定のサービスレベルを確保しつつあるかもしれない。

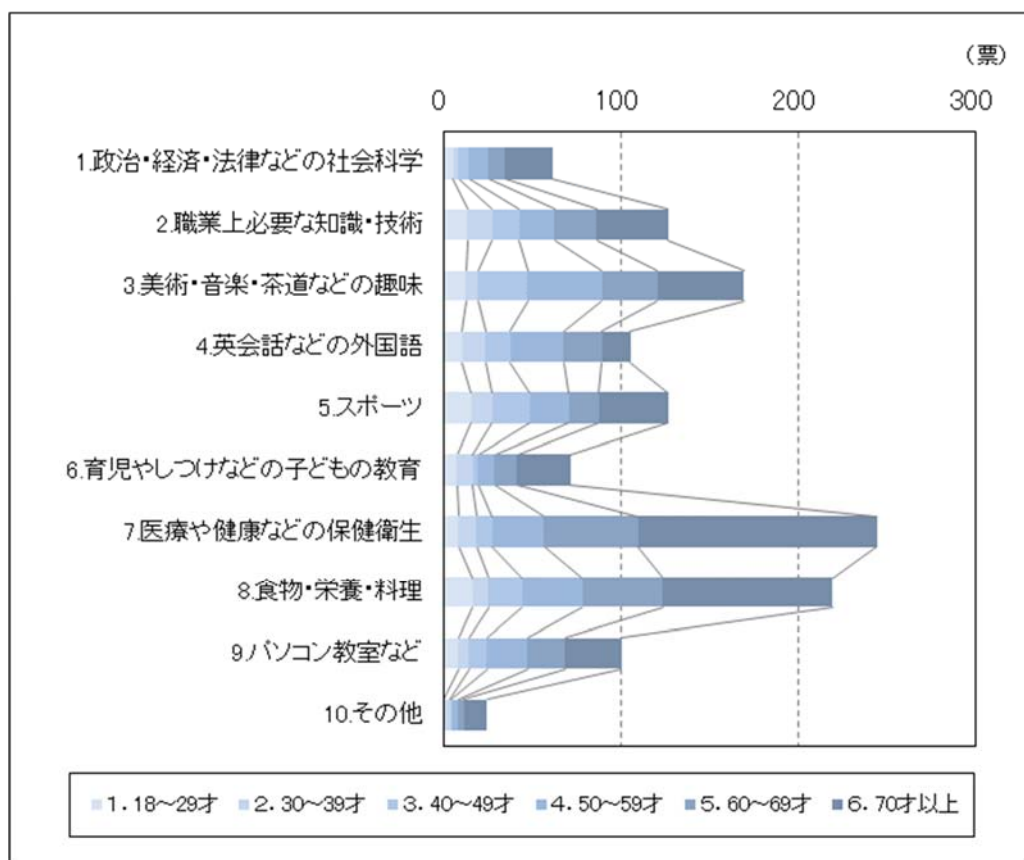


問 11

生涯学習では、どのようなことを学びたいですか？
あてはまる番号2つに○印を付けてください。

全体的にみると、「医療や健康などの保健衛生」が最も多く、「食物・栄養・料理」、「美術・音楽・茶道などの趣味」が続いている。

年齢別にみると、18～29才は「食物」、30代は「職業上必要な知識・技術」、40代と50代は「美術等の趣味」、60才以上は「医療や健康」が最も多くなっており、年齢によって趣向が異なっていることがわかる。

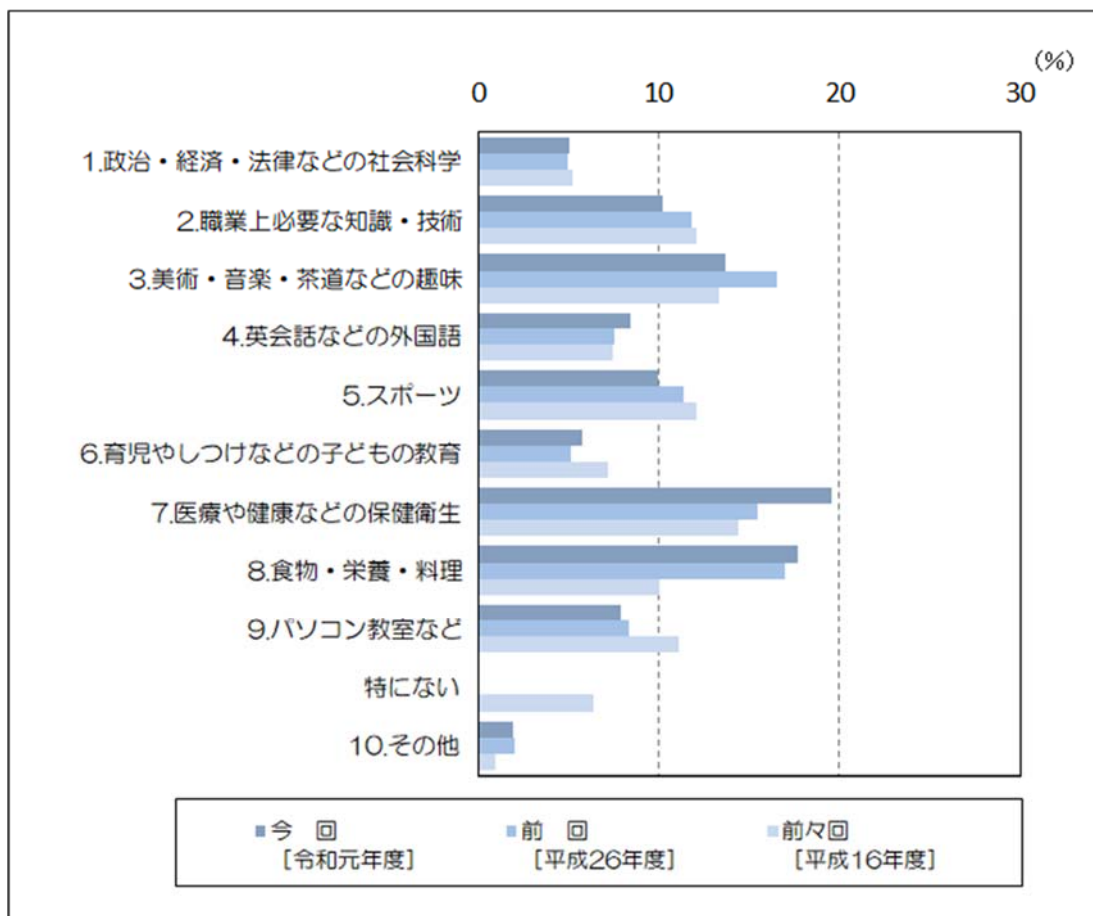


	1.政治・経済・法律などの社会科学	2.職業上必要な知識・技術	3.美術・音楽・茶道などの趣味	4.英会話などの外国語	5.スポーツ	6.育児やしつけなどの子どもの教育	7.医療や健康などの保健衛生	8.食物・栄養・料理	9.パソコン教室など	10.その他
合計	63	129	173	106	126	72	247	223	100	24
1. 18～29才	5	13	12	10	15	7	8	16	8	0
2. 30～39才	3	14	7	13	12	9	10	9	6	3
3. 40～49才	6	15	28	14	21	3	9	19	10	1
4. 50～59才	11	20	42	30	22	9	29	34	23	4
5. 60～69才	9	24	31	22	17	13	53	45	21	3
6. 70才以上	27	40	49	16	39	30	135	96	32	13
無記入	2	3	4	1	0	1	3	4	0	0

経年的に増加しているのは、「医療や健康などの保健衛生」、「食物・栄養・料理」、「英会話などの外国語」である。

経年的に減少しているのは、「スポーツ」、「職業上必要な知識・技術」、「パソコン教室」である。

これらのことから、学びのテーマは時代変化にあわせることが必要と考えられる。

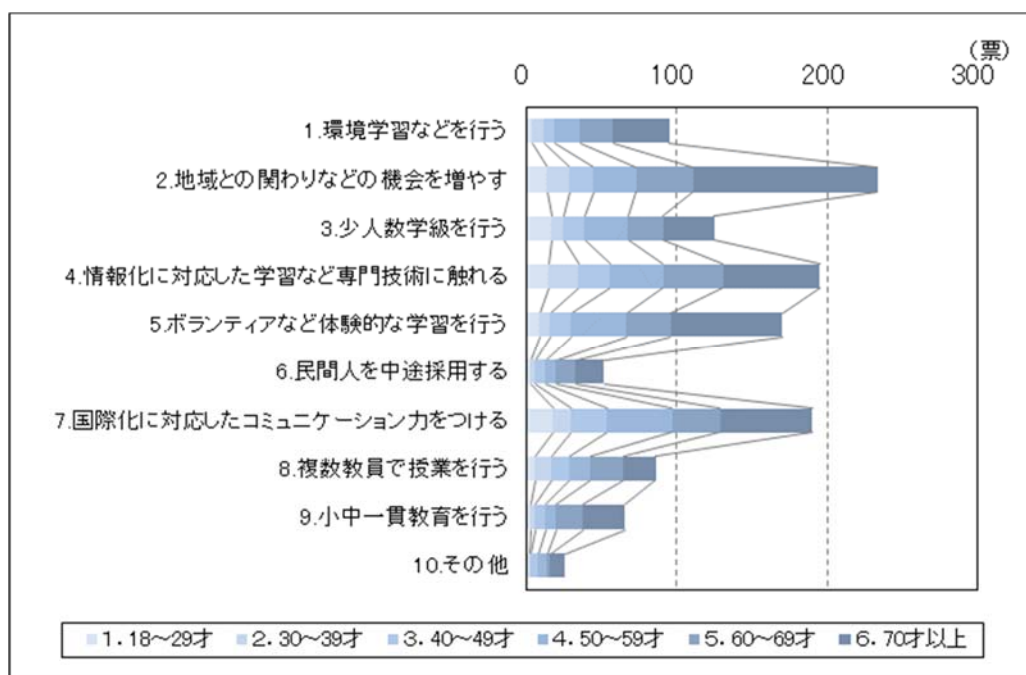


問 12

学校教育を充実させるため、どのようなことに重点をおくべきだと思いますか？あてはまる番号2つに○印を付けてください。

全体的にみると、「地域との関わりなどの機会を増やす」が最も多く、「情報化に対応した学習など専門技術に触れる」、「国際化に対応したコミュニケーション力をつける」が続いている。

年齢別にみると、18～29才、40代と50代は「国際化」、30代と60代は「情報化」、70才以上は「地域」が最も多くなっている。



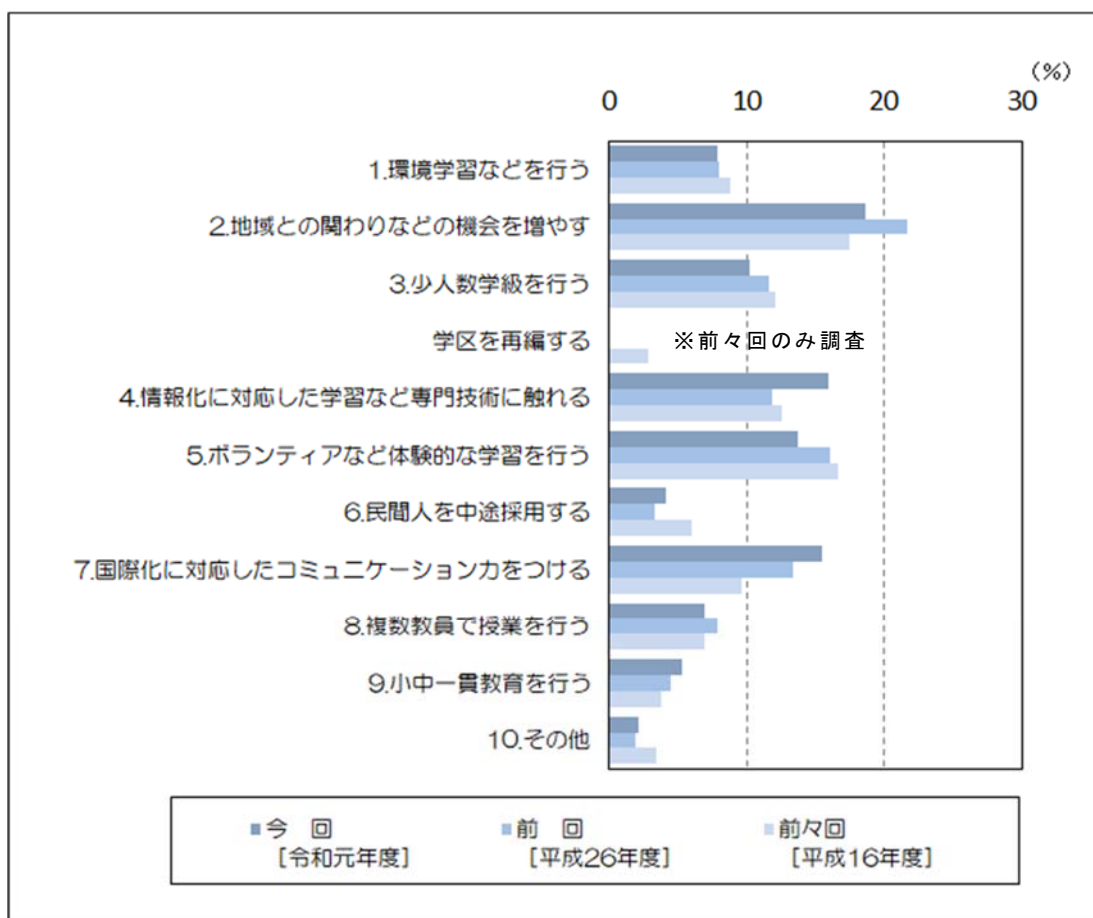
	1.環境学習などを行う	2.地域との関わりなどの機会を増やす	3.少人数学級を行う	4.情報化に対応した学習など専門技術に触れる	5.ボランティアなど体験的な学習を行う	6.民間人を中途採用する	7.国際化に対応したコミュニケーション力をつける	8.複数教員で授業を行う	9.小中一貫教育を行う	10.その他
合計	98	233	127	200	171	52	193	86	66	26
1. 18～29才	4	14	17	15	9	3	18	6	3	2
2. 30～39才	8	15	8	20	7	3	12	11	3	1
3. 40～49才	7	16	14	21	14	7	24	12	7	5
4. 50～59才	17	28	29	35	37	7	43	14	7	6
5. 60～69才	22	38	23	40	29	13	32	22	18	2
6. 70才以上	37	122	34	64	74	19	61	21	28	10
無記入	3	0	2	5	1	0	3	0	0	0

「地域との関わりなどの機会を増やす」は、18～69才は減少傾向で関心が低くなっているが、70才以上は恒常的な課題と考えられる。

経年的に増加しているのは、「情報化に対応した学習など専門技術に触れる」、「国際化に対応したコミュニケーション力をつける」である。

経年的に減少しているのは、「ボランティアなど体験的な学習を行う」、「少人数学級を行う」である。

これらのことから、学校教育を充実させるためには、時代変化にあわせることが必要と考えられる。



F

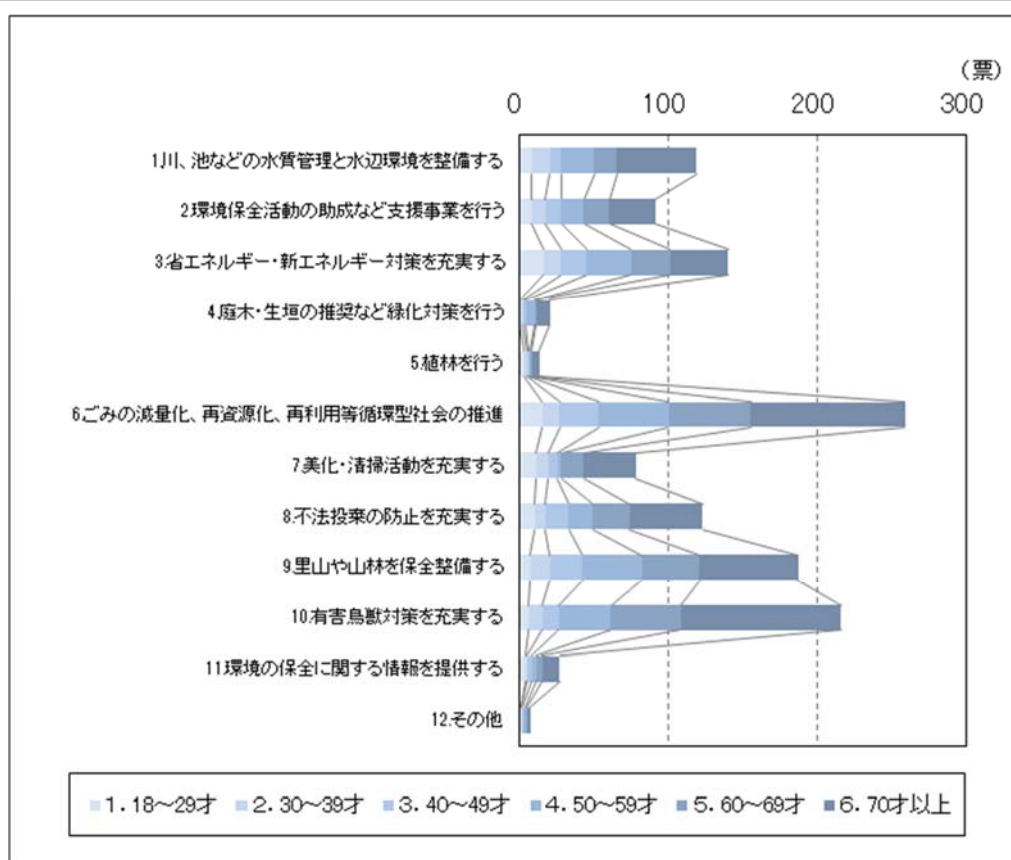
環境問題についてお伺いします

問 13

環境問題に対して、どのようなことに重点をおくべきだと思いますか？
あてはまる番号2つまで○印を付けてください。

全体的にみると、「ごみの減量化、再資源化、再利用等循環型社会の推進」が最も多く、「有害鳥獣対策を充実する」、「里山や山林を保全整備する」が続いている。

年齢別にみると、18～29才は「エネルギー」、30代は「里山山林」、40代、50代及び60代は「循環型社会」、70才以上は「有害鳥獣」が最も多い。



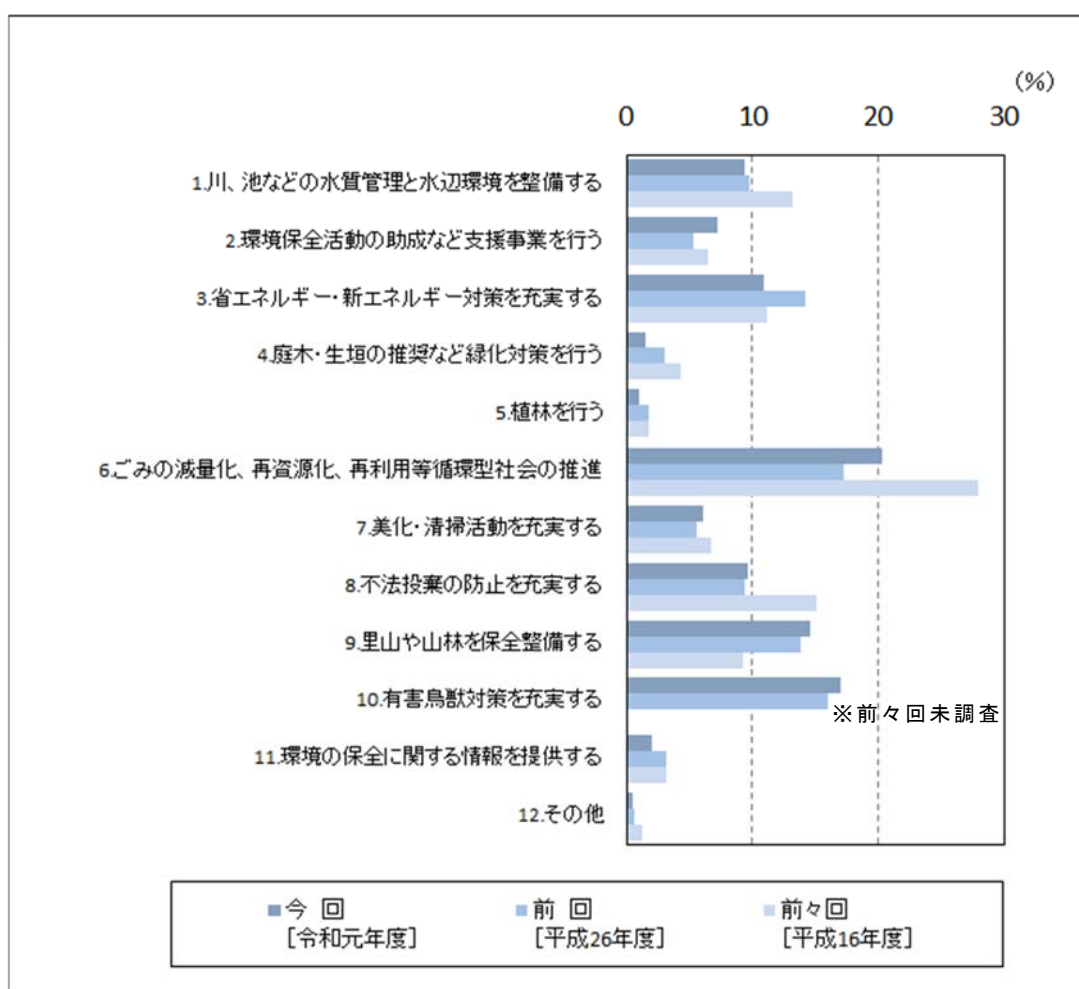
	1. 川、池などの水質管理と水辺環境を整備する	2. 環境保全活動の助成など支援事業を行う	3. 省エネルギー・新エネルギー対策を充実する	4. 庭木・生垣の推奨など緑化対策を行う	5. 植林を行う	6. ごみの減量化、再資源化、再利用等循環型社会の推進	7. 美化・清掃活動を充実する	8. 不法投棄の防止を充実する	9. 里山や山林を保全整備する	10. 有害鳥獣対策を充実する	11. 環境の保全に関する情報を提供する	12. その他
合計	121	93	141	20	13	263	78	125	189	220	27	7
1. 18~29才	8	8	16	0	3	15	11	10	7	6	4	1
2. 30~39才	12	9	12	2	2	12	8	7	13	9	1	0
3. 40~49才	8	11	17	2	1	26	6	16	22	11	3	1
4. 50~59才	22	15	30	6	1	47	3	16	40	35	3	2
5. 60~69才	15	17	26	1	1	55	15	25	39	47	4	1
6. 70才以上	54	31	39	9	5	104	35	49	66	108	12	2
無記入	2	2	1	0	0	4	0	2	2	4	0	0

「ごみの減量化、再資源化、再利用等循環型社会の推進」は、恒常的な課題になっていると考えられる。

経年的に増加しているのは、「有害鳥獣対策を充実する」、「里山や山林を保全整備する」である。

経年的に減少しているのは、「川、池などの水質管理と水辺環境の整備する」、「不法投棄の防止を充実する」である。

これらのことから、有害鳥獣や山林の保全が新たなテーマになり、水質管理や不法投棄は一定のレベルまで確保されつつあるかもしれない。



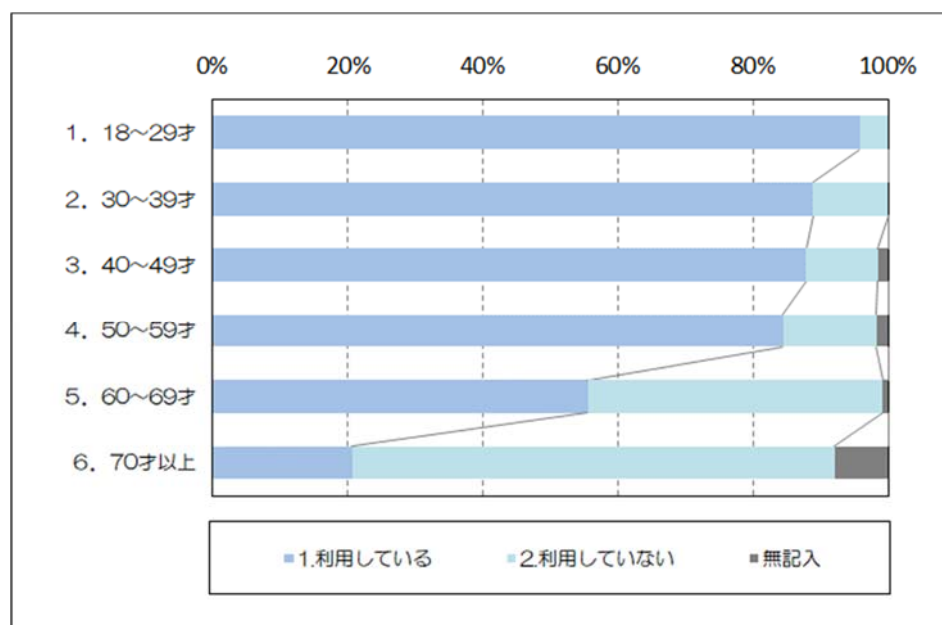
問 14

インターネットや電子メールを利用していますか？
 あてはまる番号に○印を付けてください。

全体的にみると、「利用している」が多くなっている。

年齢別にみると、18～29才は約90％以上、30代～50代は80％以上、60代は約50％以上、70才以上は約20％になっており、前回に比べて利用できる割合が高くなっている。

これらのことから、町の施策や事業にインターネット等を活用することは可能と考えられる。ただし、高齢者への配慮が必要である。



選 択 肢	1.利用して いる	2.利用して いない	無記入	合計
1. 18～29才	46	2	0	48
2. 30～39才	40	5	0	45
3. 40～49才	58	7	1	66
4. 50～59才	98	16	2	116
5. 60～69才	70	55	1	126
6. 70才以上	60	208	23	291
無記入	3	6	9	18
合計	375	299	36	710

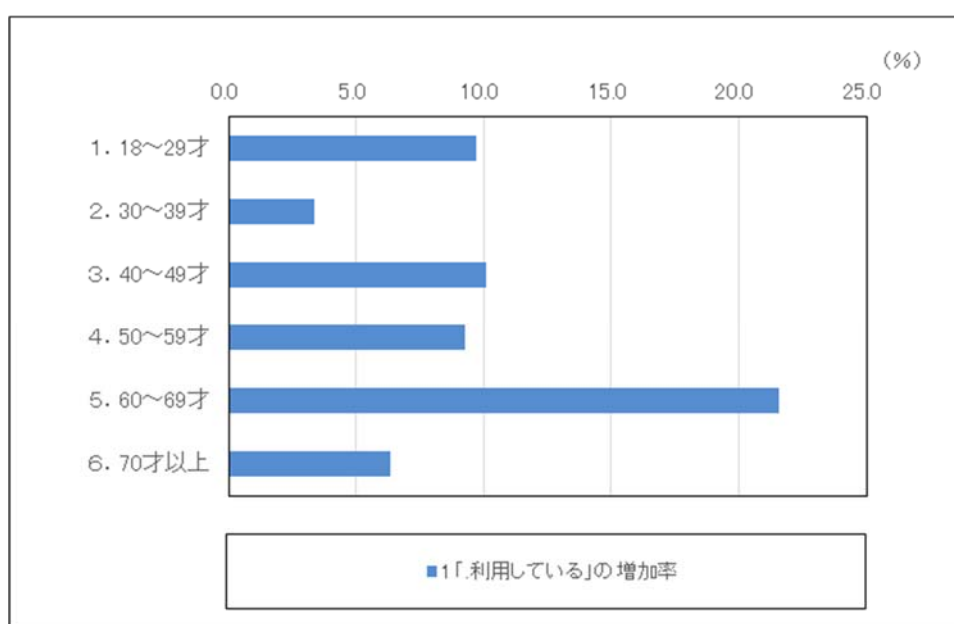
「利用している」について、前回からの増加率を調べた。

結果、すべての世代で増加している。

世代別にみると、18～50代は、前ページの結果より、80%以上が利用していることから、増加率はそれほど高くない。

一方、60代は、増加率が20%を超えて高くなっており、多くの人が利用しつつ傾向になっていると思われる。

70才以上は、若干増加しているが、大幅に増加することは見込めないかもしれない。

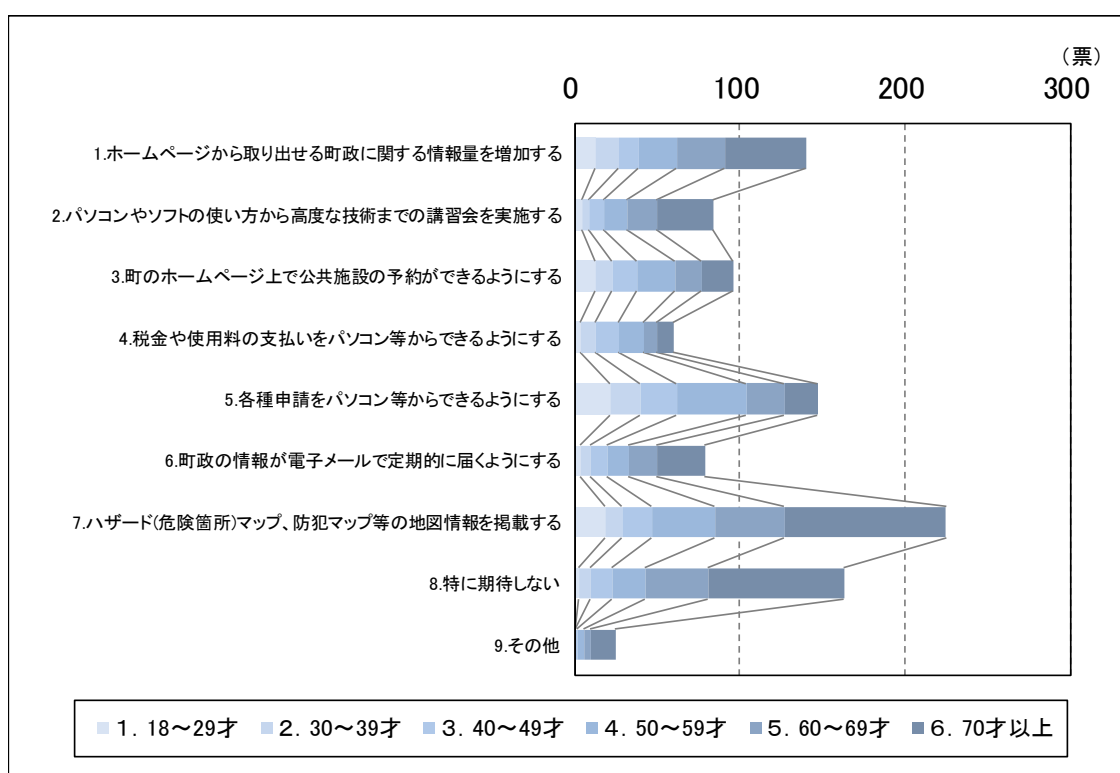


問 15

情報化に対して、町に対して期待することは何ですか？
あてはまる番号2つまで○印を付けてください。

全体的にみると、「ハザード(危険箇所)マップ、防犯マップ等の地図情報を掲載する」が最も多く、次いで「特に期待しない」、「各種申請書をパソコン等からできるようにする」が多くなっている。

年齢別にみると、18～59才は「各種申請書をパソコン等で」、60才以上は「ハザードマップ情報」が最も多くなっており、年齢によって期待が異なっていることがわかる。

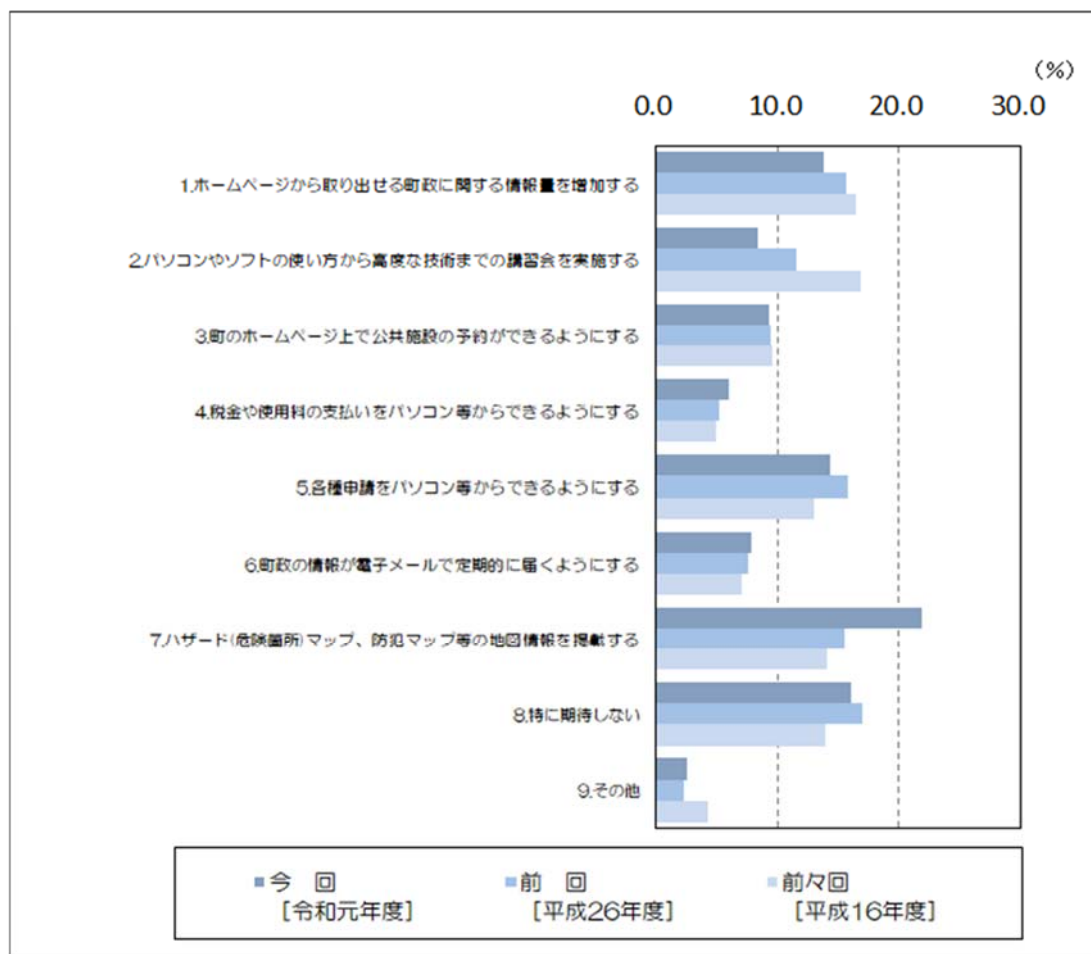


	1. ホームページから取り出せる町政に関する情報量を増加する	2. パソコンやソフトの使い方から高度な技術までの講習会を実施する	3. 町のホームページ上で公共施設の予約ができるようにする	4. 税金や使用料の支払いをパソコン等からできるようにする	5. 各種申請をパソコン等からできるようにする	6. 町政の情報が電子メールで定期的に届くようにする	7. ハザード(危険箇所)マップ、防犯マップ等の地図情報を掲載する	8. 特に期待しない	9. その他
合計	142	86	96	61	148	80	225	165	26
1. 18~29才	13	5	13	4	22	4	19	3	0
2. 30~39才	14	4	10	9	18	6	10	7	1
3. 40~49才	12	9	15	14	22	10	18	13	1
4. 50~59才	23	14	23	15	42	13	38	20	4
5. 60~69才	29	18	16	8	23	17	42	38	4
6. 70才以上	49	34	19	10	20	29	98	82	15
無記入	2	2	0	1	1	1	0	2	1

経年的に増加しているのは、「ハザード(危険箇所)マップ、防犯マップ等の地図情報を掲載する」で、高齢者を中心に期待が高まっている。

経年的に減少しているのは、「パソコンやソフトの使い方から高度な技術までの講習会を実施する」、「ホームページから取り出せる町政に関する情報量を増加する」である。

これらのことから、ホームページや講習会は、一定のサービスレベルを確保しつつあるかもしれない。



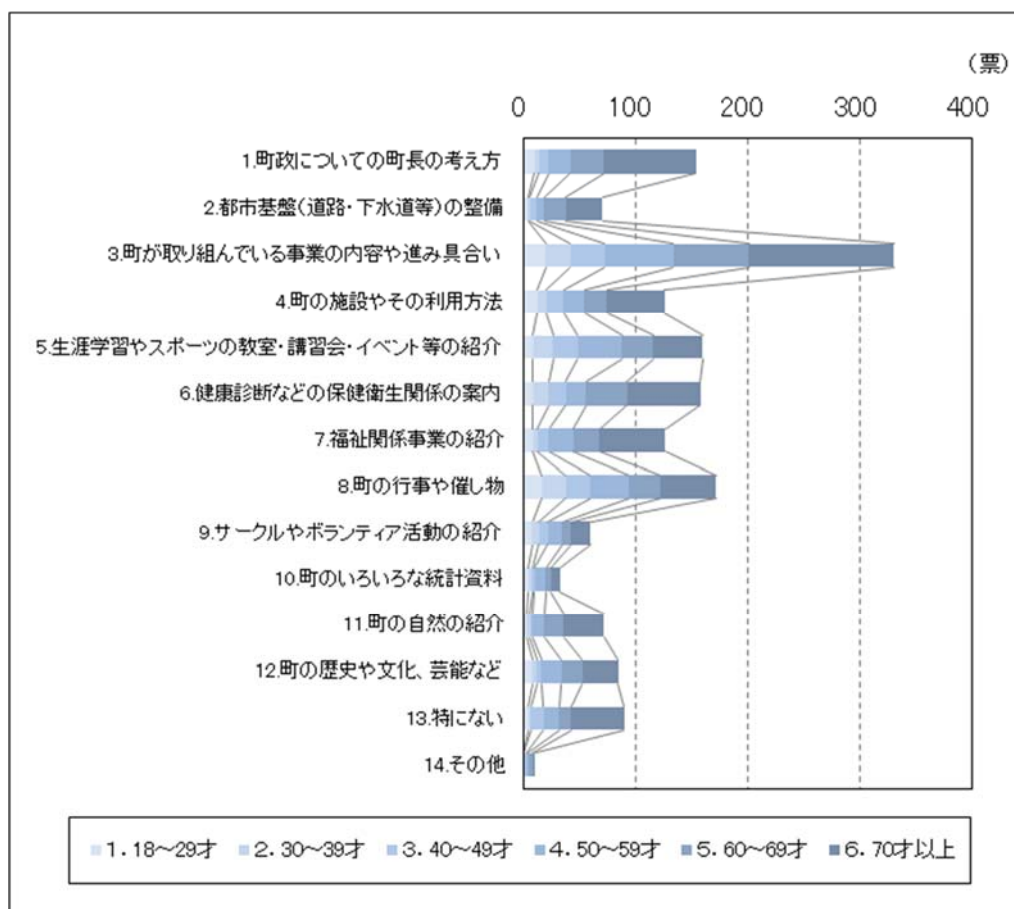
問 16

町からの広報を通じて、あなたが特に知りたいことは何ですか？
あてはまる番号3つまで○印を付けてください。

全体的にみると、「町が取り組んでいる仕事の内容や進み具合」が最も多く、「町の行事や催し物」が続いている。

年齢別にみても、「町が取り組んでいる事業の内容や進み具合」が最も多くなっている。

したがって、施策や事業の進捗状況は、継続的に情報提供する必要がある。



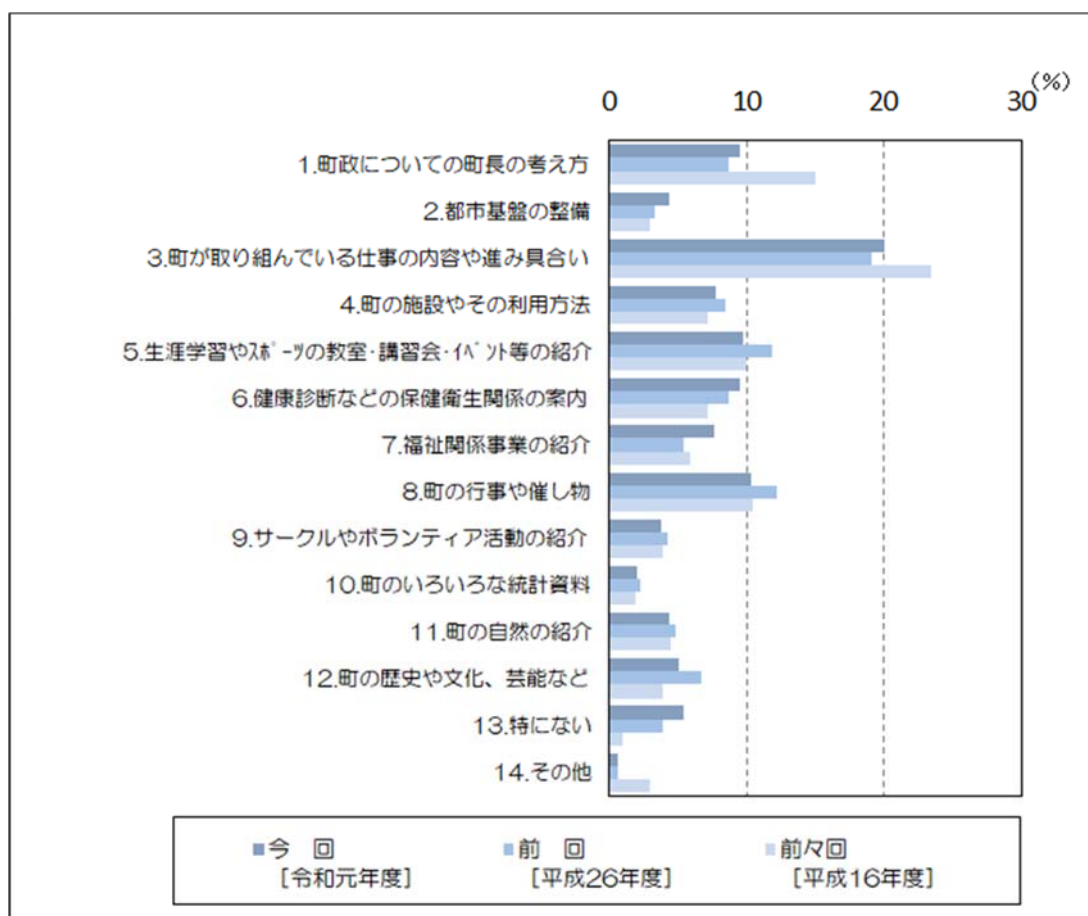
	1. 町政についての町長の考え方	2. 都市基盤(道路・下水道等)の整備	3. 町が取り組んでいる事業の内容や進み具合	4. 町の施設やその利用方法	5. 生涯学習やスポーツの教室・講習会・イベント等の紹介	6. 健康診断などの保健衛生関係の案内	7. 福祉関係事業の紹介	8. 町の行事や催し物	9. サークルやボランティア活動の紹介	10. 町のいろいろな統計資料	11. 町の自然の紹介	12. 町の歴史や文化、芸能など	13. 特にない	14. その他
合計	159	73	334	130	162	159	128	173	62	33	73	85	90	11
1. 18～29才	10	4	20	13	9	9	9	17	8	5	3	8	5	0
2. 30～39才	4	2	22	8	18	14	4	21	6	3	3	4	2	1
3. 40～49才	9	6	31	15	22	15	10	22	8	2	2	4	11	2
4. 50～59才	19	7	61	19	39	18	22	35	13	10	11	18	14	2
5. 60～69才	30	19	67	20	28	37	23	28	8	5	17	19	11	4
6. 70才以上	82	33	129	51	44	65	59	49	17	8	36	32	47	2
無記入	5	2	4	4	2	1	1	1	2	0	1	0	0	0

「町が取り組んでいる事業の内容や進み具合」は、恒常的な課題になっていると考えられる。

経年的に増加しているのは、高齢者で多くなっている「健康診断などの保健衛生関係の案内」である。

経年的に減少している項目で、目立つものはない。

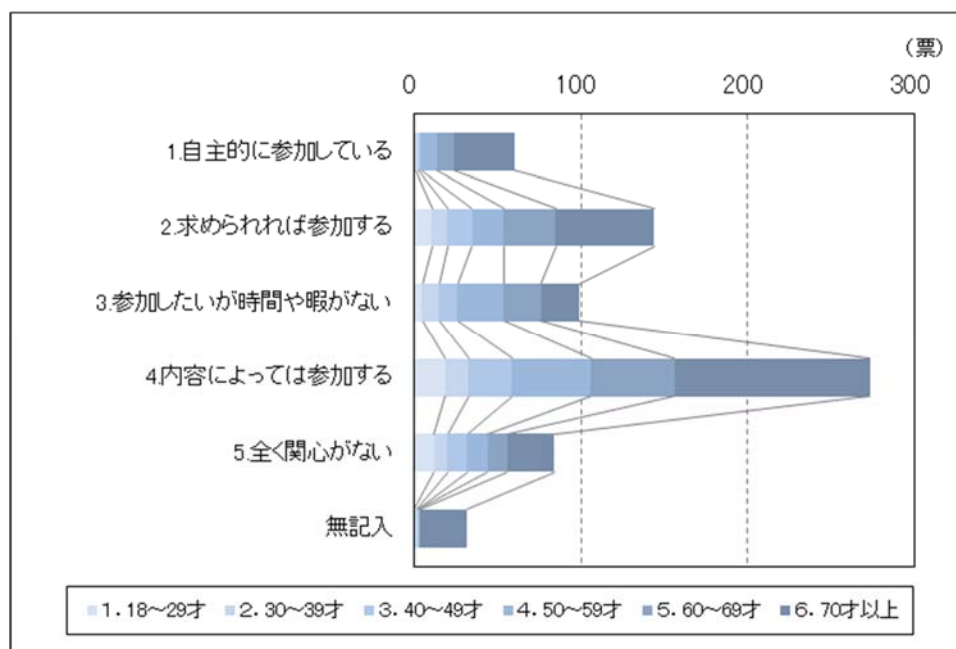
これらのことから、広報については、経年的な変化があまりみられないため、これまでの内容でよいかもしれない。



問 17

地域の「まちづくり」や「コミュニティ(地域社会)づくり」などの活動や運動への参加について、あなたはどのようにお考えですか？
 あてはまる番号1つに○印を付けてください。

全体的にみると、「内容によっては参加する」が最も多くなっている
 年齢別にみても、「内容によっては参加する」が最も多くなっている
 が、次いで多いのは、18～29才は「全く関心がない」、30代と50代は「参加したいが時間や暇がない」、40代と60代は「求められれば参加する」になっている。

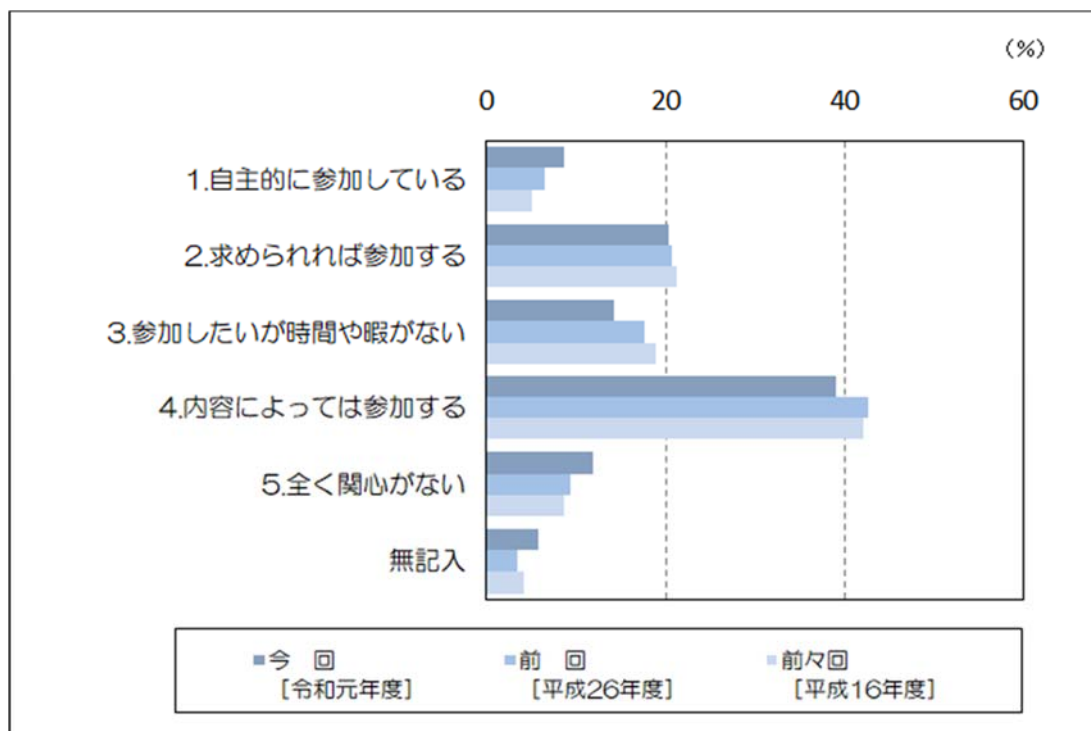


	1.自主的に参加している	2.求められれば参加する	3.参加したいが時間や暇がない	4.内容によっては参加する	5.全く関心がない	無記入	合計
合計	61	145	101	277	85	41	710
1. 18～29才	1	11	5	19	12	0	48
2. 30～39才	2	9	10	14	8	2	45
3. 40～49才	1	15	11	26	12	1	66
4. 50～59才	10	19	28	47	12	0	116
5. 60～69才	10	31	22	50	12	1	126
6. 70才以上	36	59	23	117	28	28	291
無記入	1	1	2	4	1	9	18

経年的に増加しているのは、「全く関心がない」、「自主的に参加している」である。

経年的に減少しているのは、「内容によっては参加する」、「求められれば参加する」、「参加したいが時間や暇がない」である。

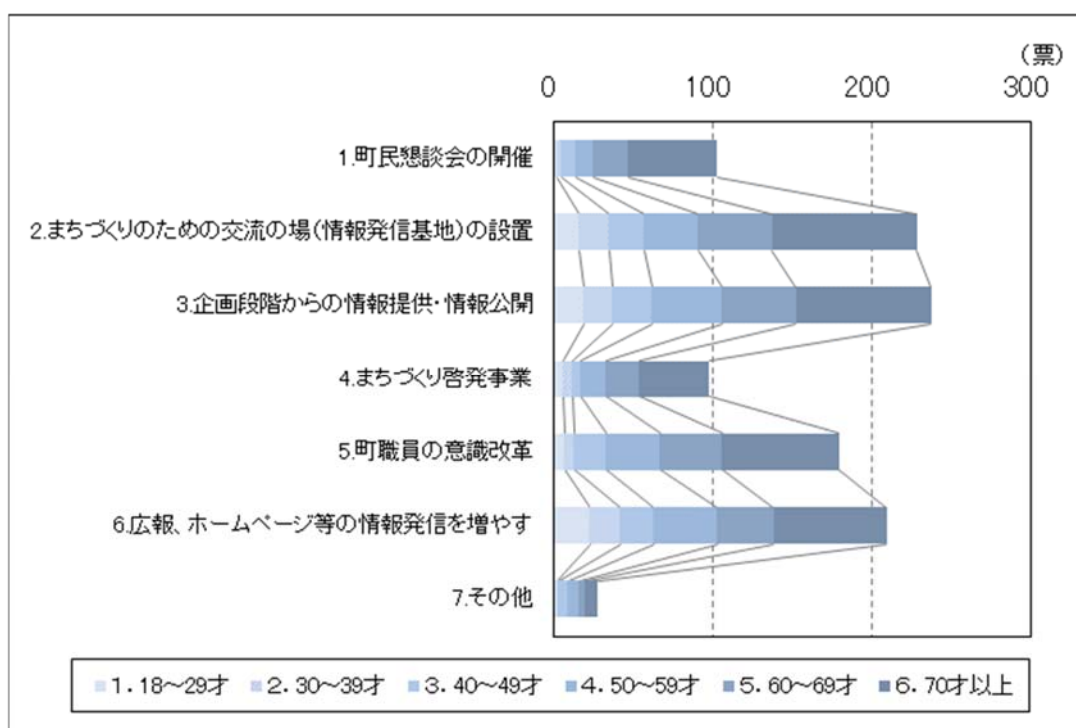
これらのことから、住民参加は、内容によっては参加する人が多く、わずかながら自主的な人と、関心がない人に二極化しつつある。



問 18

町が住民参画を図るには、どのような取り組みをすべきですか？
あてはまる番号2つまで○印を付けてください。

全体的にみると、「企画段階からの情報提供・情報公開」が最も多く、「まちづくりのための交流の場(情報発信基地)の設置」が続いている。
年齢別にみると、18～29才は「広報、ホームページ等」、30代は「交流の場」と「広報、ホームページ等」、40代と50代は「企画段階からの情報提供」、60代は「交流の場」と「企画段階からの情報提供」、70代は「交流の場」が多くなっている。



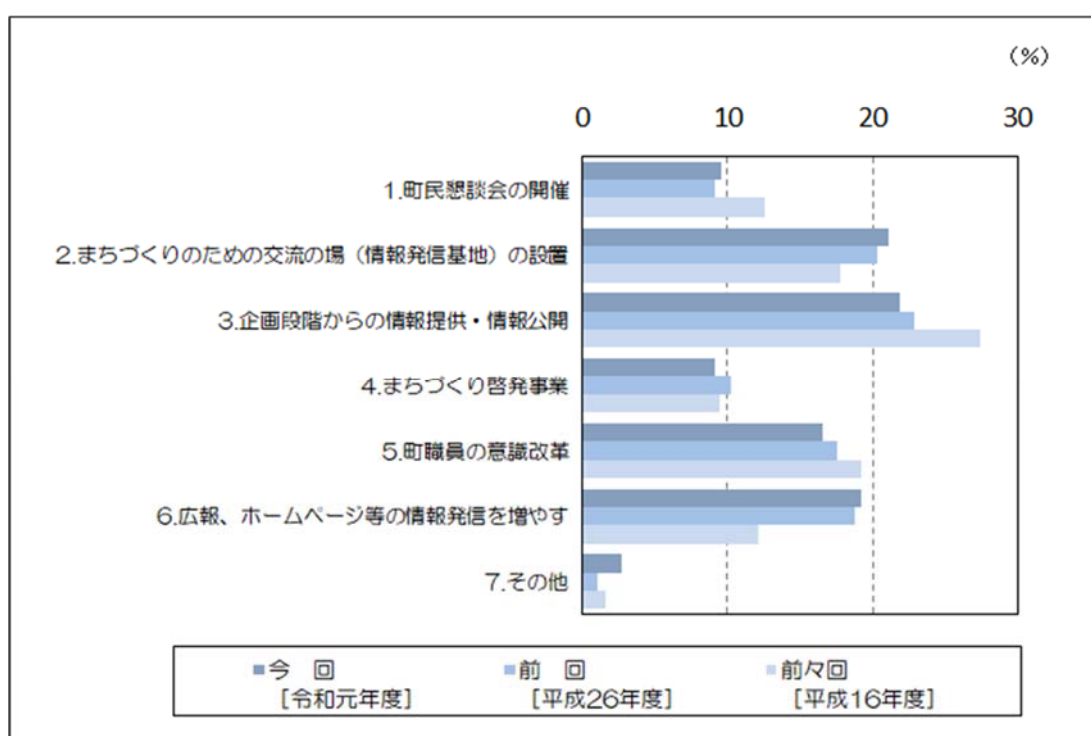
	1.町民懇談会の開催	2.まちづくりのための交流の場(情報発信基地)の設置	3.企画段階からの情報提供・情報公開	4.まちづくり啓発事業	5.町職員の意識改革	6.広報、ホームページ等の情報発信を増やす	7.その他
合計	104	230	239	99	181	210	29
1. 18～29才	2	16	19	6	7	23	2
2. 30～39才	3	19	18	6	6	19	1
3. 40～49才	9	22	25	5	20	21	6
4. 50～59才	11	34	44	16	34	40	7
5. 60～69才	22	46	46	21	39	35	4
6. 70才以上	56	91	85	44	73	71	8
無記入	1	2	2	1	2	1	1

経年的に増加しているのは、「まちづくりのための交流の場（情報発信基地）の設置」、「広報、ホームページ等の情報発信を増やす」である。

経年的に減少しているのは、「企画段階からの情報提供・情報公開」、「町職員の意識改革」である。

なお、年齢別にみると、50才以上は前回と今回で変化がみられないため、若い年齢に比べて関心が低いかもしれない。

これらのことから、企画段階からの情報提供等や町職員の意識は、一定のサービスレベルを確保しつつあるのかもしれない。

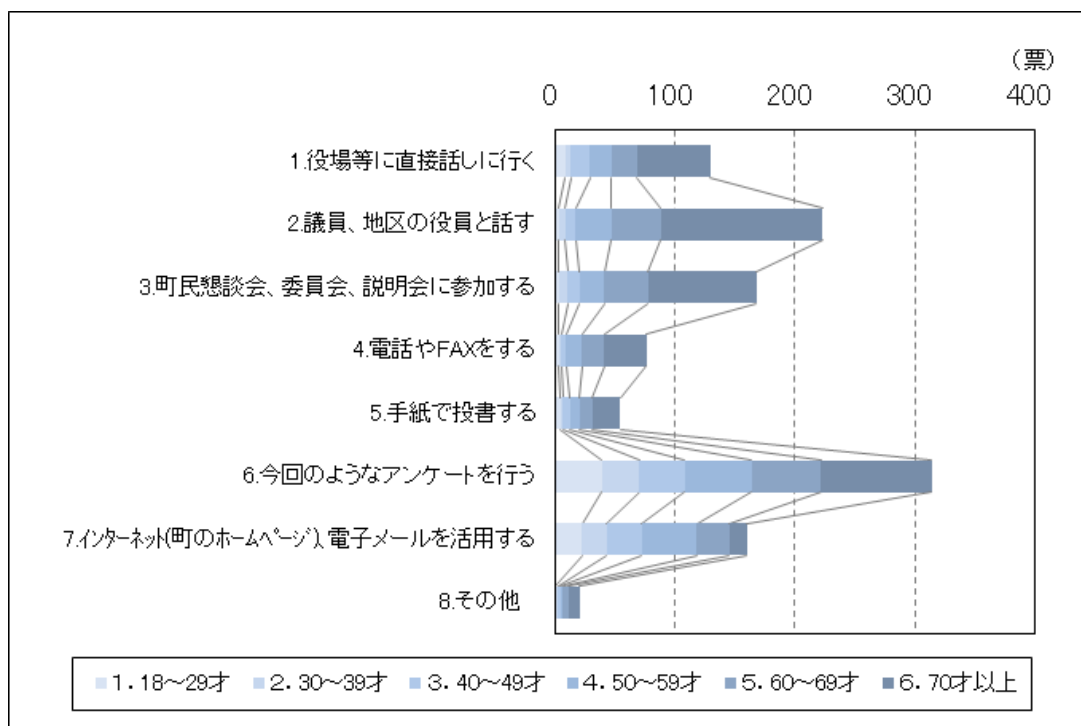


問 19

あなたが、町政に参加しやすいのは、どの方法ですか？
あてはまる番号2つに○印を付けてください。

全体的にみると、「今回のようなアンケートを行う」が最も多く、「議員、地区の役員と話す」が続いている。

年齢別にみても、「今回のようなアンケートを行う」が多く、70才以上になると「議員、地区の役員と話す」が多くなっている。



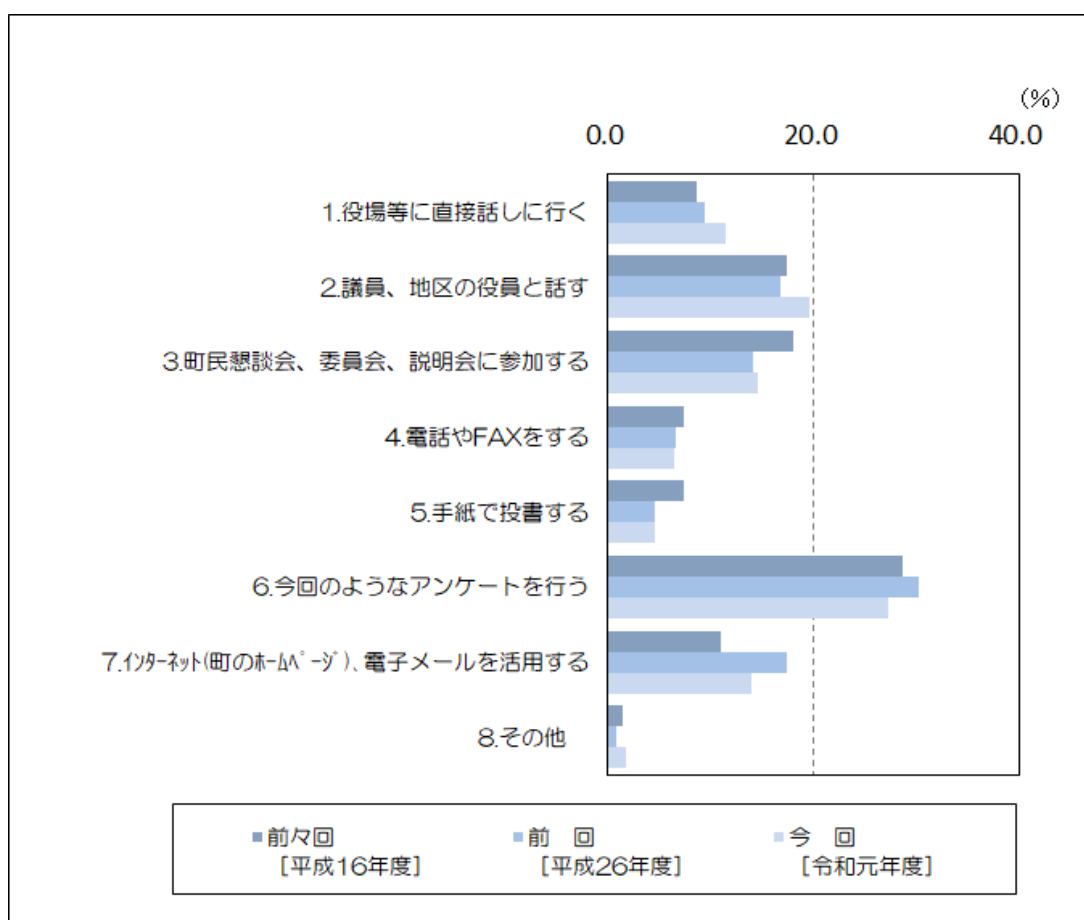
	1.役場等に直接話しに行く	2.議員、地区の役員と話す	3.町民懇談会、委員会、説明会に参加する	4.電話やFAXをする	5.手紙で投書する	6.今回のようなアンケートを行う	7.インターネット(町のホームページ)、電子メールを活用する	8.その他	無記入	合計
合計	133	228	169	76	54	317	163	20	260	1,420
1. 18~29才	8	3	3	3	4	39	22	0	14	96
2. 30~39才	5	5	7	2	2	31	21	2	15	90
3. 40~49才	16	9	10	4	6	38	29	2	18	132
4. 50~59才	18	30	21	13	8	56	46	2	38	232
5. 60~69才	21	41	36	19	11	58	27	5	34	252
6. 70才以上	61	135	91	35	23	92	15	9	121	582
無記入	4	5	1	0	0	3	3	0	20	36

経年的に増加しているのは、「町民懇談会、委員会、説明会に参加する」である。

経年的に減少しているのは、「役場等に直接話に行く」、「インターネット（町のホームページ）、電子メールを活用する」である。

なお、年齢別にみると、60才以上は前回と今回で変化がみられないため、若い年齢に比べて関心が低いかもしれない。

これらのことから、前回と同様にアンケートやインターネットの活用が多いものの、直接対話の傾向もみられる。

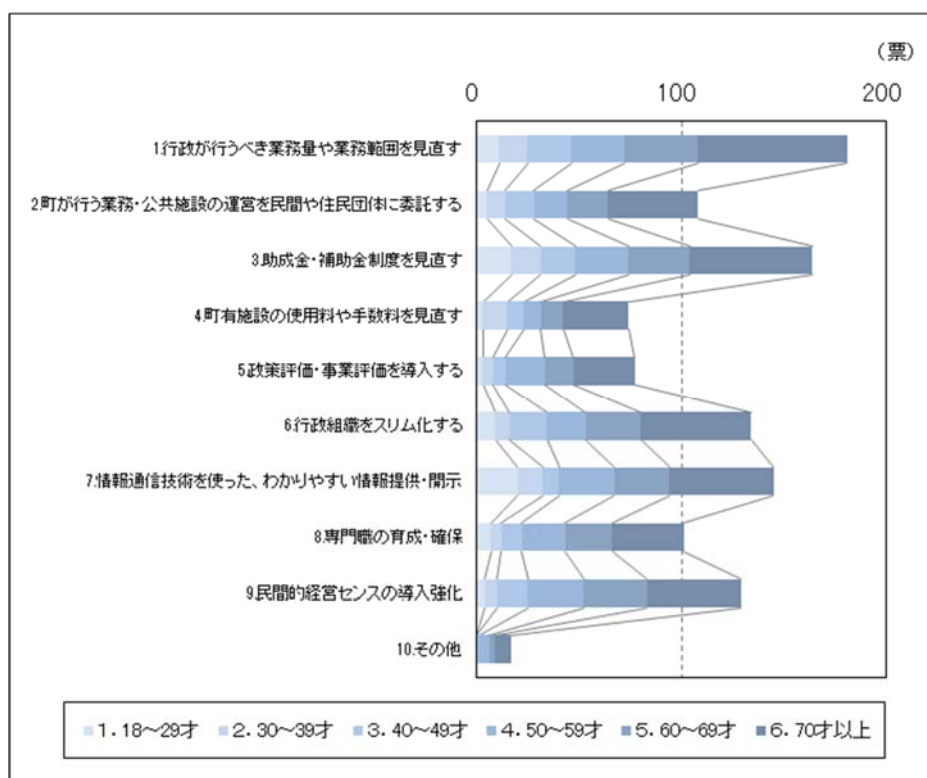


問 20

行財政改革に取り組むには、どのようなことに重点をおくべきと思いますか？あてはまる番号2つまで○印を付けてください。

全体的にみると、「行政が行うべき業務量や業務範囲を見直す」が最も多く、次いで、「助成金・補助金制度を見直す」、「情報通信技術を使ったわかりやすい情報提供・開示」が多くなっている。

年齢別にみると、18～29才は「情報通信技術」、30代は「業務量や業務範囲を見直す」と「助成金・補助金制度を見直す」、40代、60代及び70代は「業務量や範囲の見直し、50代は「情報通信技術」と「民間的经营センス」が最も多くなっている。



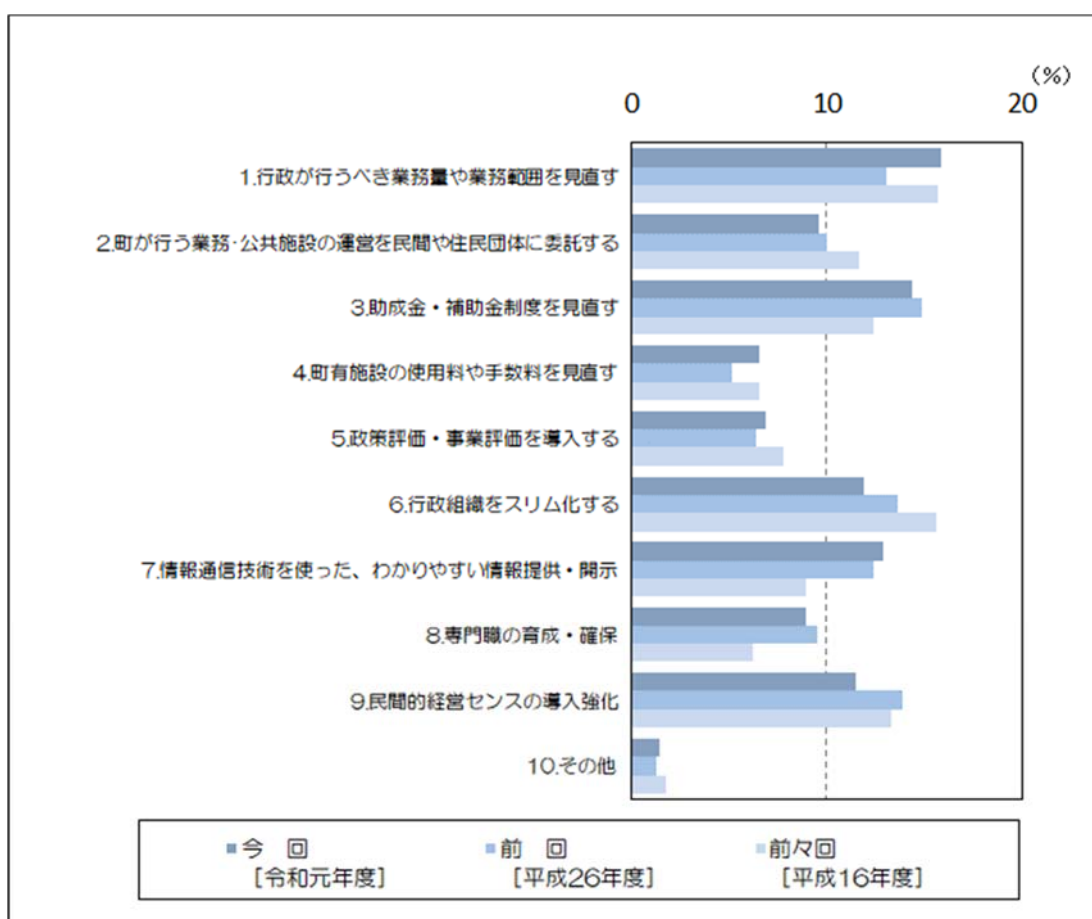
	1. 行政が行うべき業務量や業務範囲を見直す	2. 町が行う業務・公共施設の運営を民間や住民団体に委託する	3. 助成金・補助金制度を見直す	4. 町有施設の使用料や手数料を見直す	5. 政策評価・事業評価を導入する	6. 行政組織をスリム化する	7. 情報通信技術を使った、わかりやすい情報提供・開示	8. 専門職の育成・確保	9. 民間的经营センスの導入強化	10. その他
合計	182	110	165	75	79	136	148	102	132	17
1. 18～29才	11	5	17	3	3	9	20	7	4	0
2. 30～39才	14	9	14	12	5	7	12	5	6	0
3. 40～49才	21	14	17	8	6	18	8	10	15	1
4. 50～59才	26	16	26	8	19	19	27	21	27	5
5. 60～69才	36	20	30	11	14	27	27	23	31	3
6. 70才以上	73	44	60	32	30	54	51	35	46	8
無記入	1	2	1	1	2	2	3	1	3	0

前回に比べて多くなっている「行政が行うべき業務量や業務範囲を見直す」や「助成金・補助金制度を見直す」は、恒常的な課題になっていると考えられる。

経年的に増加しているのは、「情報通信技術を使ったわかりやすい情報提供・開示」である。

経年的に減少しているのは、「行政組織をスリム化する」、「民間的経営センスの導入強化」である。

この設問については、最も多い項目で200票を下回っていることや（他は200票超）、年齢で意見が異なっていることから、回答者である町民にとって、意見し難いテーマとみられる。

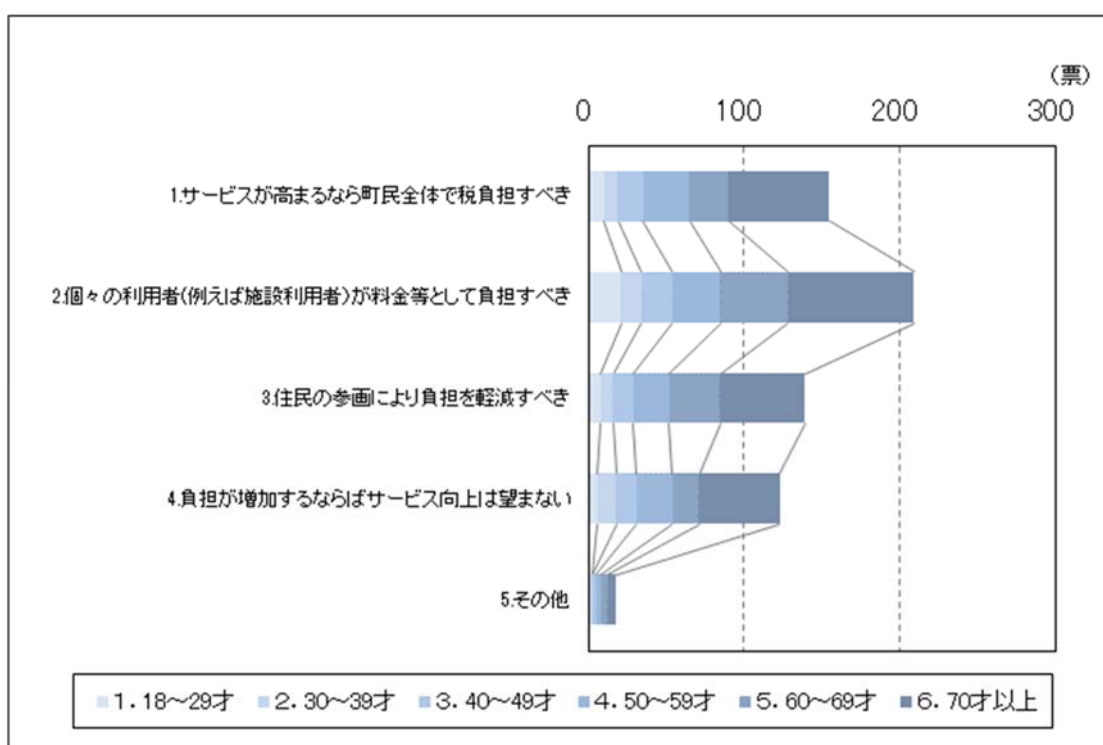


問 21

今後、新たな施設整備や福祉対策などを充実していくにあたり、町民の負担が増える場合、どのように考えますか？あてはまる番号1つに○印を付けてください。

全体的にみると、「個々の利用者（例えば施設利用者）が料金として負担すべき」が最も多く、次いで「サービスが高まるなら町民全体で税負担すべき」が多くなっている。

年齢別にみても、同様な傾向になっているが、30代は「個々の利用者が負担すべき」に次いで「負担が増加するならばサービス向上は望まない」が多くなっている。



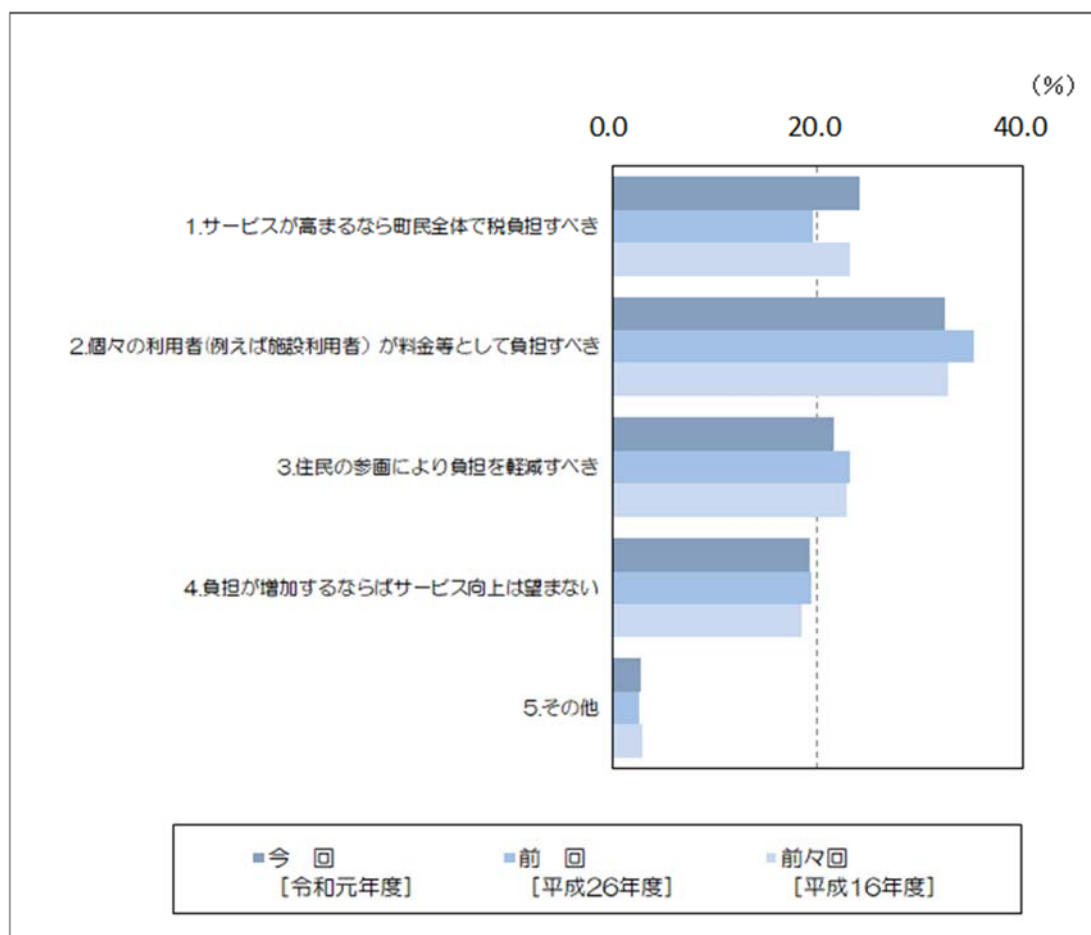
	1.サービスが高まるなら町民全体で税負担すべき	2.個々の利用者(例えば施設利用者)が料金等として負担すべき	3.住民の参画により負担を軽減すべき	4.負担が増加するならばサービス向上は望まない	5.その他	無記入	合計
合計	157	211	141	125	18	58	710
1. 18～29才	10	21	8	6	2	1	48
2. 30～39才	9	13	8	12	0	3	45
3. 40～49才	16	20	13	13	3	1	66
4. 50～59才	30	31	23	23	3	6	116
5. 60～69才	25	43	33	17	4	4	126
6. 70才以上	65	81	54	52	6	33	291
無記入	2	2	2	2	0	10	18

町民の負担に関しては、多少増減があるものの、経年的にあまり変化がみられない。

前回と比較すると、30代や50代は「負担が増加するならばサービス向上は望まない」が約10%増加し、逆に40代は約10%減少しており、世代によって考え方が異なる。

なお、年齢別にみると、50才以上は前回と今回で変化がみられないため、若い年齢に比べて関心が低いかもしれない。

これは、施設整備や福祉対策に関する新たな負担は、これまでの官民のバランスでよいということかもしれない。

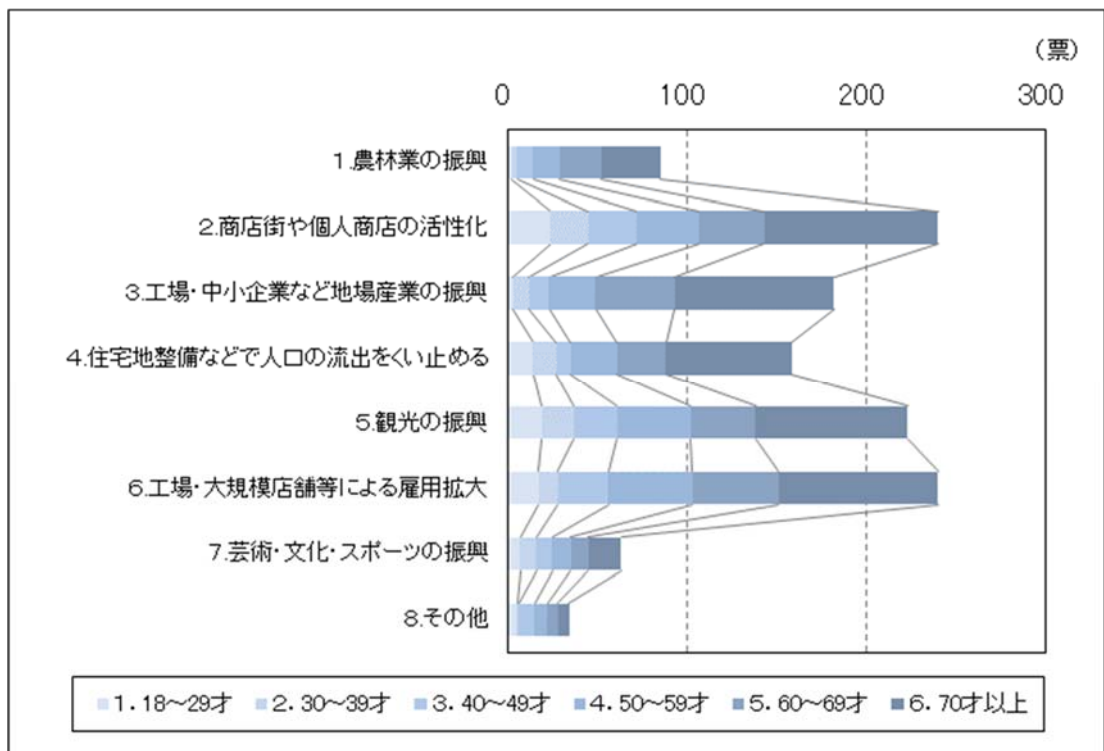


問 22

中之条町が活性化するためには、今後どのようなことに力を入れたらよいとお考えですか？あてはまる番号2つに○印を付けてください。

全体的にみると、「工場・大規模店舗等による雇用の拡大」が最も多く、「商店街や個人商店の活性化」、「観光の振興」が続いている。

年齢別にみると、18～29才、30代及び70才以上は「商店街や個人商店の活性化」が、40～60代は「工場・大規模店舗等による雇用の拡大」が最も多くなっている。



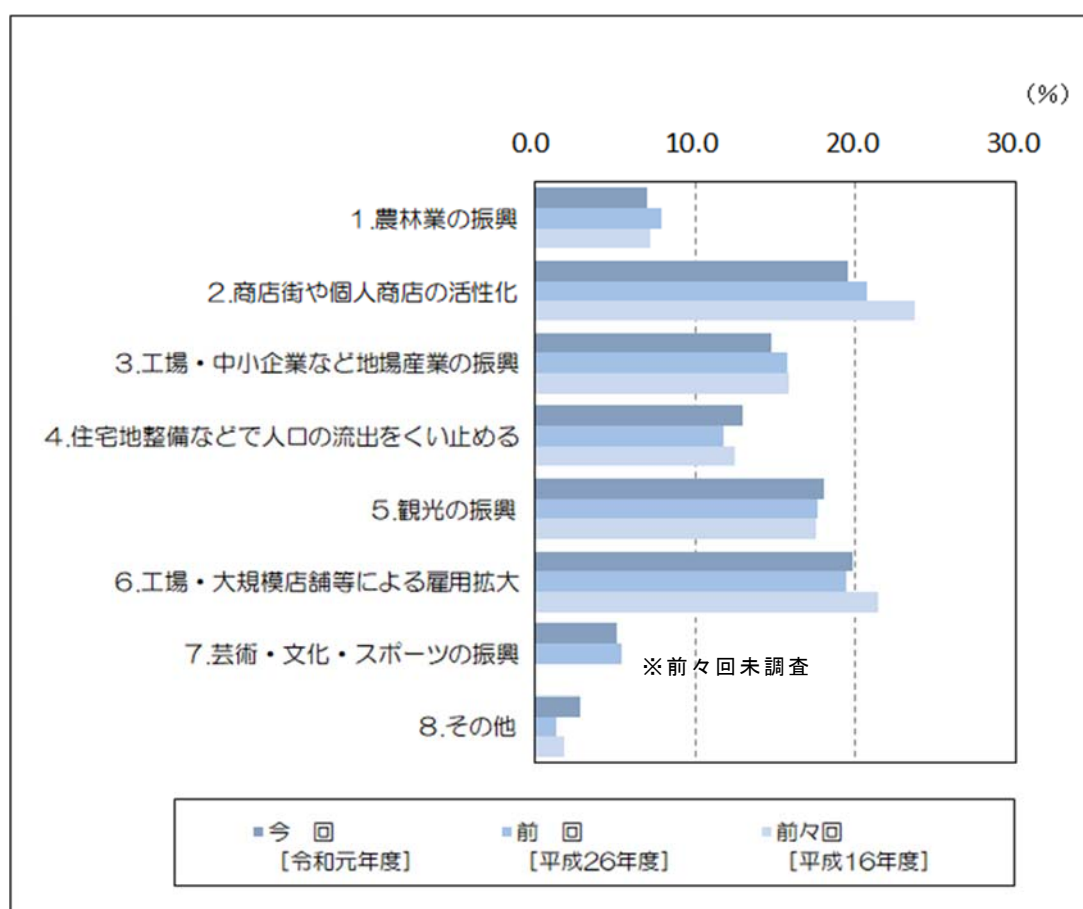
	1. 農林業の振興	2. 商店街や個人商店の活性化	3. 工場・中小企業など地場産業の振興	4. 住宅地整備などで人口の流出をくい止める	5. 観光の振興	6. 工場・大規模店舗等による雇用の拡大	7. 芸術・文化・スポーツの振興	8. その他
合計	87	242	183	161	224	245	63	35
1. 18～29才	2	24	3	14	19	17	7	5
2. 30～39才	3	21	9	13	18	11	9	1
3. 40～49才	9	27	11	8	24	28	9	9
4. 50～59才	15	35	26	26	41	47	10	7
5. 60～69才	23	36	44	27	36	48	10	6
6. 70才以上	33	97	89	70	85	89	18	6
無記入	2	2	1	3	1	5	0	1

経年的にやや増加しているのは、「観光の振興」である。

経年的に減少しているのは、「商店街や個人商店の活性化」である。

前回と比較すると、18～29才は、「工場・大規模店舗による雇用拡大」や「住宅地整備」が約8%増加している。18～29才、40代及び50代は「工場・中小企業など地場産業の振興」が約5～7%減少している。

これらのことから、従来の商店街より、工場や大規模店舗による雇用増大が望まれつつある。



K

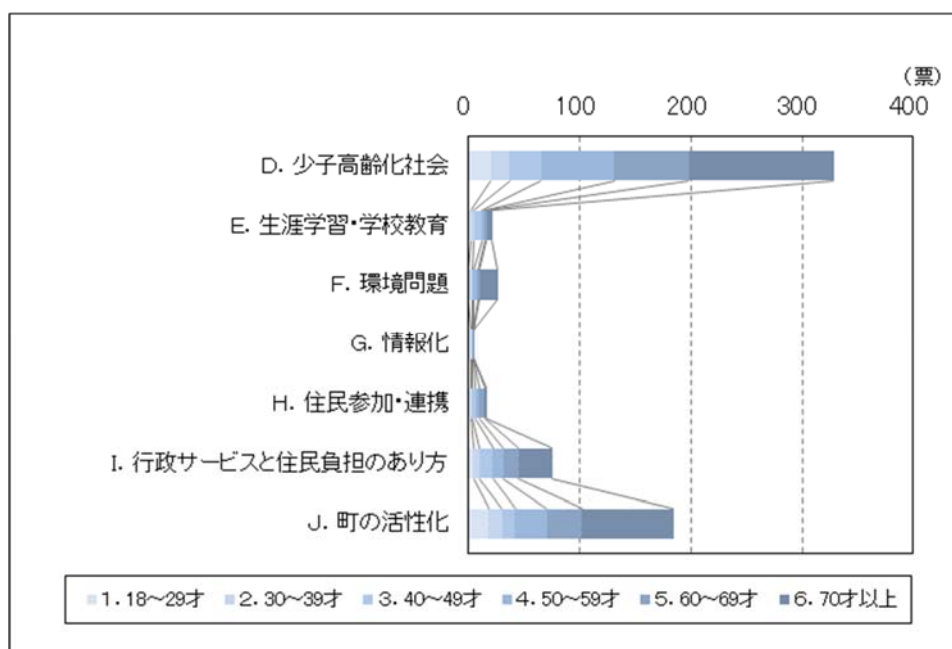
最も重視すべきことをお伺いします

問 23

これまでお伺いしてきた項目のうち、最も重視すべきことは何ですか？
あてはまる番号 1 つに○印を付けてください。

全体的にみると、「少子高齢化社会」が最も多く、「町の活性化」が続いている。

年齢別にみても、同様な傾向になっている。

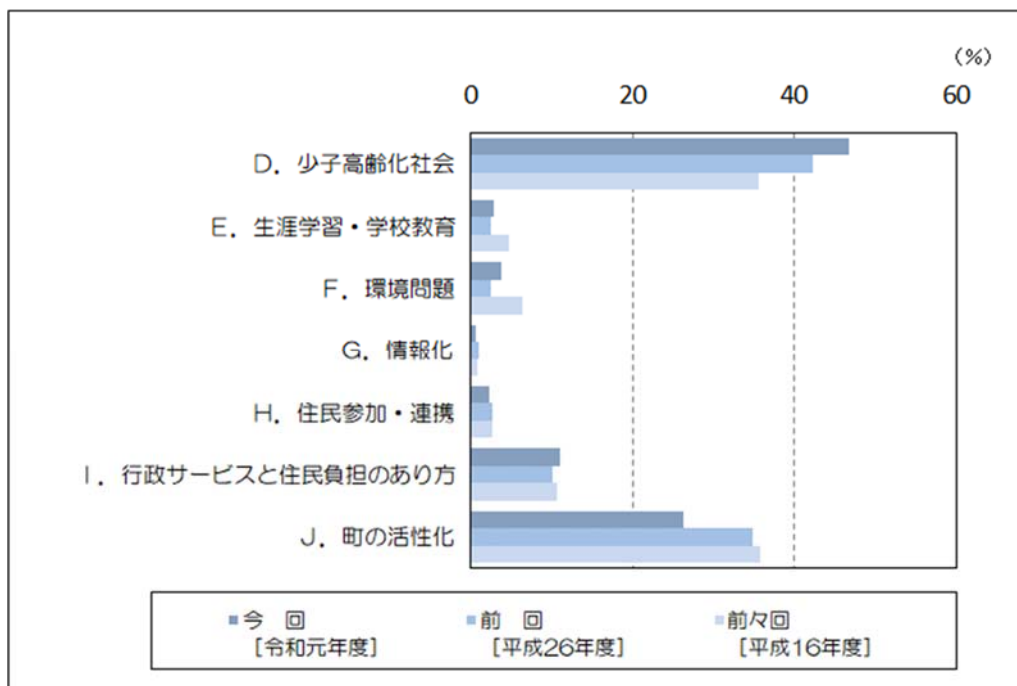


	D. 少子高齢化社会	E. 生涯学習・学校教育	F. 環境問題	G. 情報化	H. 住民参加・連携	I. 行政サービスと住民負担のあり方	J. 町の活性化	無記入	合計
合計	331	21	27	5	16	78	186	46	710
1. 18~29才	20	2	0	2	2	4	18	0	48
2. 30~39才	17	3	3	1	1	6	12	2	45
3. 40~49才	28	7	1	1	3	12	12	2	66
4. 50~59才	66	2	4	0	3	9	28	4	116
5. 60~69才	67	2	2	0	5	14	32	4	126
6. 70才以上	130	5	16	1	2	30	82	25	291
無記入	3	0	1	0	0	3	2	9	18

経年的にやや増加しているのは、「少子高齢化社会」である。

経年的に減少しているのは、「町の活性化」である。

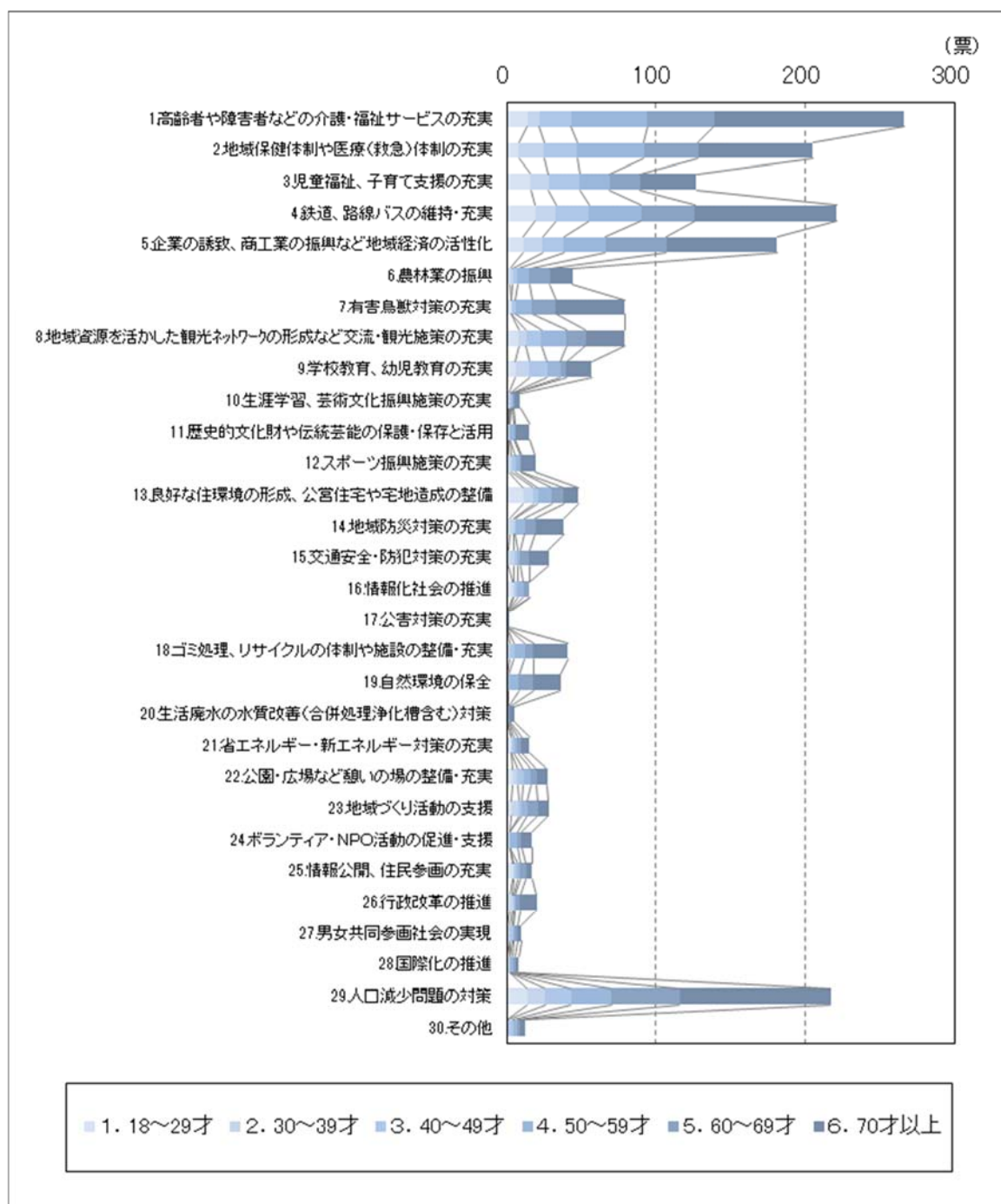
これらのことから、少子高齢化社会への対応が一層望まれていると考えられる。



中之条町を住みよくするために、町の行政はどの分野に特に力を入れたらよいと思いますか？あてはまる番号3つまで○印を付けてください。

全体的にみると、「高齢者や障害者などの介護・福祉サービスの充実」が最も多く、次いで「鉄道、路線バスの維持・充実」、「人口減少問題の対策」が続いている。

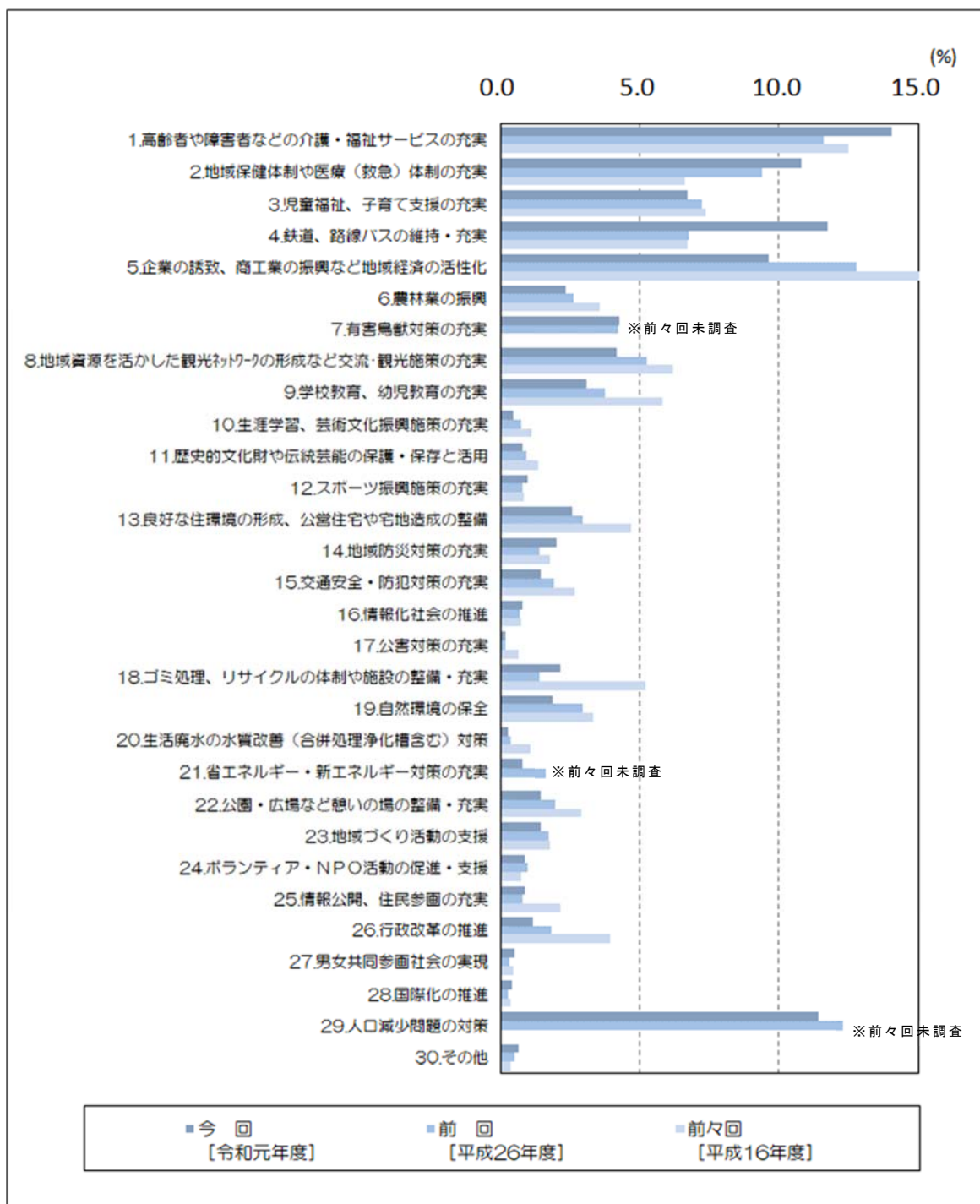
年齢別にみると、18～29才は「鉄道、路線バス」、30代は「地域保健医療」、40代は「地域保健医療」と「鉄道、路線バス」、50代と70才以上は「介護・福祉サービス」、60才代は「人口減少」が最も多くなっている。



経年的に増加しているのは、「地域保健体制や医療（救急）体制の充実」、「鉄道、路線バスの維持・充実」である。「高齢者や障害者などの福祉サービスの充実」は、今回、高齢者のサンプル数が多いことによる。

経年的に減少しているのは、「企業の誘致、商工業の振興など地域経済の活性化」、「児童福祉、子育て支援の充実」である。

医療や公共交通機関が増加し、多くの項目がやや減少している。これは、優先順位が高まっている傾向とみられる。

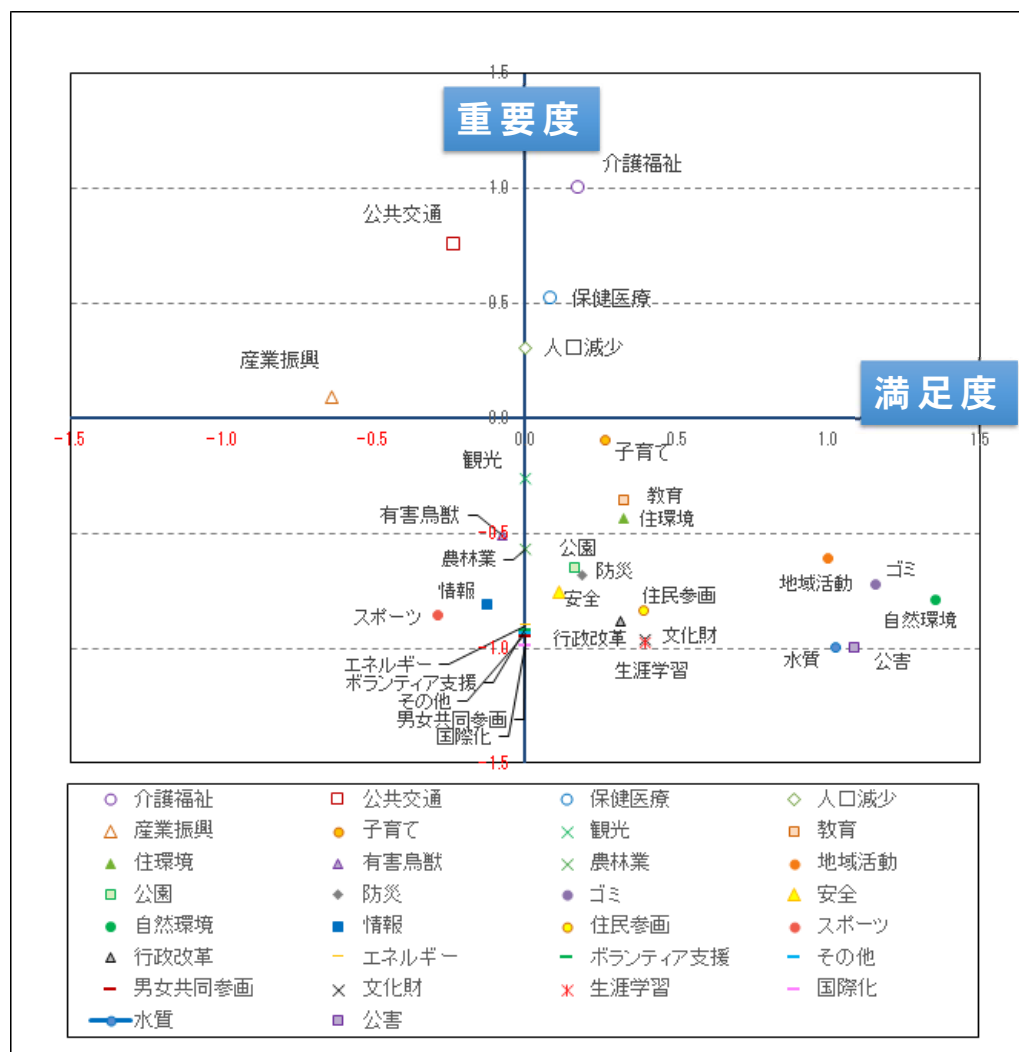


【参考】重要度満足度の分析

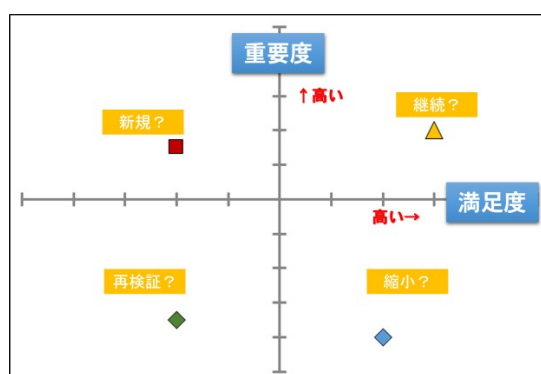
重要度満足度調査は、直接行っていない。今回は、問5と問24を用いて、任意の設定に基づき分析した。設定条件は解説参照（→後ページ）。

（１） 分析結果

「公共交通」、「産業振興」、「介護福祉」の分野が、注目すべき分野と考えられる。これらの分野は、この報告書の結果と、年齢や地域等のニーズを詳細にみて、政策や事業に反映する必要がある。



[グラフの見方]



重要度と満足度で、散布図を作ると、各象限が意味をもつことになる。この中で、「重要度」が高く「不満」の項目が、最も注目すべき分野かもしれない。

なお、重要度の軸上にある点（人口減少、観光等）は、問5で選択肢に無い（満足度をはかれない）分野。

(2) 解説

重要度満足度調査は、ある分野(項目)の重要度と満足度それぞれを伺う調査である。ここでは、問5と問24を用いていますが、この分析を行うために設定した質問ではないため、少々課題がある。

1つ目の課題は、問5と問24で選択肢が異なっているため、1つのグラフに表すことができない。そこで、おおまかな分野に置換して表すことにした。

2つ目の課題は、問24では重要と思うもの3つまで選択できる、複数回答になっている。複数回答は、最も重要と思うものではないことに注意を要する。

そこで、票数が多いものを重要度が高いこととし、その値が中央値からどの程度離れているかを重要度とした。

したがって、今回の結果は、重要度と満足度の”数値”には意味はないが、分野間の相対的な序列として意味を持つことになる。

① 問5を用いた満足度の設定条件

ポイント	+2	+1	0	-1	-2
------	----	----	---	----	----



ポイントを票数に乘ずる

設問の選択肢	置換後の分野	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不満	無記入除いた合計	満足度 Σ(1~5)
ア. 空気や川などのきれいさについては	自然	360	231	83	6	8	688	—
	分野に置換	360*2	231*1	83*0	6*-1	8*-2	—	—
		720/688	231/688	0	-6/688	-16/688	—	1.35
イ. 悪臭・騒音・振動などについては	公害	265	250	123	27	10	675	1.09
ウ. 下水道や排水路の整備については	水環境	263	247	113	38	19	680	1.03
⋮								

対応

② 問24を用いた重要度の設定条件

設問の選択肢	置換後の分野	票数	年齢による重みをつけた票数*1	中央値 a)	積み上げ票数 b)	重要度 (b-a)÷a
1. 高齢者や障害者などの介護・福祉サービスの充実	福祉	269	588	—	4,837	1.00
4. 鉄道、路線バスの維持・充実	公共交通	225	569	—	4,249	0.76
3. 地域保健体制や医療(救急)体制の充実	保健医療	207	528	—	3,680	0.52
…17. 公害対策の充実	公害	3	2	—	2	-1.00
合 計		1,912	4,837	2,418	—	—



*1 問24は複数回答である。さらに、回答者の年齢構成は、70才以上が41%、18~29才が約7%である。したがって高齢者の意見が反映されやすくなる。よって、1票の重みを同等とするため、70才以上を1.0として、各年齢に重みを乗じた。

以 上